



国立大学法人
豊橋技術科学大学

2025
No.42

同窓会報





同窓会会長挨拶

同窓生が力合わせるプラットフォームを目指して

旧6系（建設工学系）4期生 若林 亮

<株式会社日建設計 デザインフェロー>

豊橋技術科学大学同窓会の皆様方におかれましては、常日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年初めに大地震のあった能登地方は、その後の集中豪雨の被害や余震などの心傷めるニュースが続いています。心からお見舞いを申し上げます。一方、アメリカではトランプ大統領が就任、国内では昨年の衆議院選挙で自民・公民の与党が半数割れ。世界、国内で様々な変化が起こる中、同窓生の皆様には奮闘されていることと思います。

大変残念なお知らせとして、昨年5月に学長であった寺嶋一彦先生がご逝去されました。寺嶋前学長は、コロナ禍の中でも学生へのエールとして「学長講話シリーズ」を発信するなど、熱い情熱（寺嶋前学長は「パッション！」と仰っていました）を持って、学生や同窓会に向き合ってくださいました。これらの多くのことに感謝し、ご冥福をお祈りしたいと思います。また、この1月より新学長として就任された若原昭浩先生とも、同窓会活動にはご協力をいただきながら進めていきたいと考えています。

同窓会にとって明るいニュースは、昨年6月に行われた「NHK学生ロボコン全国大会」で我が技科大が3年連続の優勝！！その後のベトナムで開催された世界大会ABUロボコン2024では、残念ながら2023年に続く連覇とはならなかったものの、後輩たちの活躍は大変嬉しいニュースとなりました。「あっぱれ!!!」です。

聞くところによると、全国大会で優勝した後の世界大会に向けて準備をする中、全国大会でライバルであった他の大学が惜しむことなく技術提供をしてくれたとのこと。自らのことを越えて互いに技術を高め合おうとする他大学の姿勢に「あっぱれ!!!」。ロボコンを通じて学生たちの将来のネットワークが築かれたことと思います。

同窓会活動としては、2023年秋号を初号に配信を始めた季報「技科大の顔」は、多くの卒業生のご協力を得て、2025年冬号まで配信できました。初号から数えて6号、延べ120名の卒業生の活動と母校への想いが伝わる良い企画になりました。ご執筆いただいた皆様、とりまとめをいただいている先生、在学生の皆様にご感謝しています。皆様におかれましても季報「技科大の顔」、是非、ご一読ください。

この他にも例年継続している優秀な学部卒業生への「同窓会会長賞」の授与、「学生課外活動支援」の他、好評をいただいている食堂での「めざましごはんプレミアム」や「同窓会カレー」への経費支援など、学生の健康、学びや研究の糧となる支援を行っています。

また、同窓生を対象とした懇親会やパーティー等の交流活動への助成は、少しずつですが申請が増えています。建設工学系の同窓生の申請が多く、これは建設工学系の関西支部同窓会に参加したメンバーから口コミで広がっているのではと推察しています。是非、この助成を活用された皆様からも口コミで多くの同窓生にお伝えいただき、同窓生が集まる場にこの助成をご活用いただければ幸いです。

さて、1976年に設立した母校は2026年10月に50周年を迎えます。大学では開学50周年記念事業を予定されていて、同窓会もこれを機に同窓生の皆様の結束を強める活動を行いたいと考えています。

これからも同窓会が同窓生の力を合わせるプラットフォームとなれるよう、皆様のご活躍を祈念すると共に、今後も同窓会活動へのご協力・ご理解を深くお願いして、挨拶に代えさせていただきます。



NHK学生ロボコン優勝・ABU

2024シーズン ロボコン同好会代表 宮下 功誠



豊橋技術科学大学同窓会の皆様、この度はABUロボコン出場に際し、とよはし☆ロボコンズへの多大なるご支援と温かい応援を賜り、誠にありがとうございました。同窓会の皆様からのご支援のおかげで、私たちは本年度もABUロボコンに出場し、多くの成果を収めることができました。

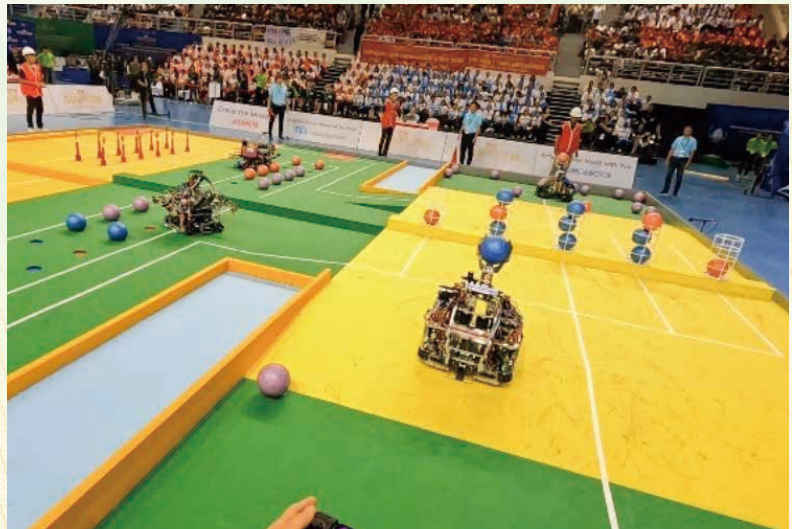
まず、2024年6月に開催されたNHK学生ロボコン2024において、私たちは大会史上初となる3連覇を達成いたしました。豊橋技術科学大学は14年前にも大会3連覇のチャンスがありましたが、惜しくも決勝戦で敗れていました。今年のNHK学生ロボコン優勝と大会3連覇は悲願であり、日本最強のロボコンチームは豊橋であることを証明できたと思っています。

続いて、8月にベトナム・クアンニン省で開催されたABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2024では、予選グループを全体で1位の成績で突破し、決勝トーナメントに進出しましたが、準決勝で香港代表に敗れ、ベスト4(3位)という成績を収めました。目指していたABUロボコン2連覇に

届かず、悔しい結果が残る大会となりました。それ以外では、私たちのロボットに込められた技術力が高く評価され、BEST ENGINEERING AWARDを受賞することができました。昨年と比べて競技の難易度が上がり、さらに各チームのロボットの完成度、技術力が高くなった中で、この賞を受賞できたことはとても嬉しいです。

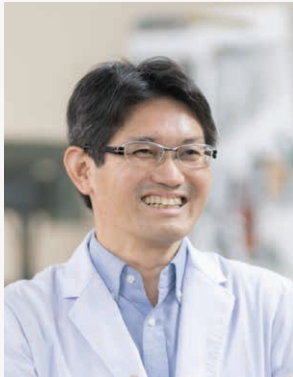
ここ数年でとよはし☆ロボコンズは、本気で世界一を目指す日本で数少ないロボコンチームに成長しました。理想ではなく、現実的な目標として堂々と「私たちは世界一になりたい」と言えるチームになりました。日本で一番のロボコンをするための環境が整っていると思います。自分たちが恵まれた環境でロボコンをできていることに感謝し、豊橋技科大を背負い、これからも世界に挑戦していきます。

最後に、この度は私たちの活動へのご支援と応援に心より感謝申し上げます。今後ともとよはし☆ロボコンズへの変わらぬご支援とご声援を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。



学内近況報告

系長 中村 祐二



同窓会の皆様におかれましては、お元気に
ご活躍のこととお慶び
申し上げます。平成 22
年 4 月に学部・大学院

組織を再編して、5つの系と総合教育院において教育と研究が行われており、旧機械システム工学系（旧 1 系）および旧生産システム工学系（旧 2 系）を統合した機械工学系（1 系）として活動しております。

機械工学系の組織は、機械・システムデザインコース、材料・生産加工コース、システム制御・ロボットコース、環境・エネルギーコースの 4 コースで構成され、計 15 研究室があります。教員、学生ともにコースに所属する研究室に在籍しております。執筆時現在（2024.11）、教授 15 名（兼務教員 1 名含む）、准教授 10 名、助教 11 名の計 36 名の教員が所属しております。2023 年度末には、薄膜材料研究室の横山 誠二 准教授が定年退職されました。先生の永年にわたる教育・研究、大学運営へのご貢献に対し心から感謝いたします。また、省エネルギー工学研究室の西川原 理仁 助教が名古屋大学の准教授として、環境エネルギー変換工学研究室の山崎 拓也 助教が弘前大学の准教授として異動されました。一方、新規採用により、2024 年 4 月には、材料機能制御研究室に石井 裕樹 助教、システム工学研究室に堀尾 亮介 助教、省エネルギー工学研究室に倉石 孝 助教が着任されました。本年 10 月には、環境エネルギー変換工学研究室の松木 大輝 助教が着任されました。また、昨年度よりサバティカルにて海外留学をされていた松岡准教授が 4 月に、高木教授が 8 月に帰国されました。

総合研究棟の一つである E1 棟に引き続き、概算要求での施設整備費として承認された E5 棟の改修が始まりました。本年度末には改修工事も終了します。次年度に向けた概算要求では E3 棟の改修要求もしております。また、2020 度以降、教育現場に大きな混乱をもたらした新型コロナウイルス感染症の影響もひと段落し、授業は対面で行われるようになり、活気に満ちたキャンパスに戻りつつあります。このように、1 系の研究教育環境は各段の改善がなされていることは朗報です。その一方で、これから入学される方は高専またはより低学年でコロナの影響を受けた若い世代になります。対面が失われた代償を引きずらぬよう、今後も一層のケアをしつつ、刷新された研究教育環境を駆使して学生育成に努めてまいります。本系の学生の活躍については、「機械工学系公式 X（旧 twitter）」（https://x.com/TUT_kikai）でも配信してゆく予定です。是非とも皆さま、フォローをお願いします。

このように、本学・本系を取り巻く環境は留まることなく都度変化しておりますが、本系では、今まで以上に社会に貢献できる教育・研究を行ってまいります。同窓会の皆様には、引き続きご支援、ご指導を賜りましたら幸いです。末尾ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりますが、本学名誉教授でもある寺嶋一彦学長が本年 5 月にご逝去されました。先生の永年にわたる暖かいご指導に感謝するとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

教職員紹介 (令和6年9月現在)

【機械・システムデザインコース】

教	授	河村 庄造、足立 忠晴、柴田 隆行、永井 萌土
准	教 授	竹市 嘉紀
助	教	田尻 大樹、岡本 俊哉

【材料・生産加工コース】

教	授	三浦 博己、小林 正和、戸高 義一
准	教 授	安井 利明、安部 洋平、大場 洋次郎、足立 望
助	教	Khoo Pei Loon、石井 裕樹

【システム制御・ロボットコース】

教	授	佐藤 海二、内山 直樹、高山 弘太郎、 高木 賢太郎
准	教 授	佐野 滋則、高橋 淳二
助	教	秋月 拓磨、比留田 稔樹、武田 沈晶、堀尾 亮介

【環境・エネルギーコース】

教	授	飯田 明由、中村 祐二、土井 謙太郎、 横山 博史
准	教 授	鈴木 孝司、関下 信正、松岡 常吉
助	教	岸本 龍典、倉石 孝、松木 大輝

着任のごあいさつ



機械工学系 助教 堀尾 亮介

このたび、機械工学系システム工学研究室の助教に着任しました堀尾亮介と申します。出身は奈良県で、奈良工業高等専門学校を卒業後、本学機械工学課程3年次に編入し、本学大学院前期課程・後期課程を修了、博士（工学）を取得いたしました。修了後はシステムインテグレータ企業に就職し、自動車の要求管理システムの整備を担当しました。その後は再び研究者を志し、本学未来ビークルシティリサーチセンターに研究員として着任、「電界結合方式の無線給電」の研究に従事し、ドローンや自動車への無線給電に関するプロジェクトに携わりました。特に、社会実装を前提にした実用的なシステムを構築することを意識して研究チームを運営しました。

現在は、「システム工学の観光業への応用」をテーマに研究を進めております。地元が観光地として有名なこともあり、以前から観光地の運営に興味を持ってきました。自身の専門分野を活かして、観光地の抱える問題の解消やさらなる発展に資する研究に取り組んでおります。具体的には、モデル予測制御やスケジューリング問題を応用した観光客の動向予測とガイドアプリ等による案内を通じて、観光地の混雑緩和や運営効率化など、持続可能な観光地運営の実現を目指しています。

これまでの経験を活かしつつ、新たな研究領域に挑戦し、教育と研究活動を通じて母校の発展に尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



機械工学系 助教 松木 大輝

2024年8月付で機械工学系環境エネルギー変換工学研究室の助教に着任いたしました松木大輝と申します。専門分野は燃焼工学です。私は愛媛県出身で新居浜高専を卒業した後、本学の第三年次に編入し、博士前期課程および後期課程を本学で修了しました。博士の学位取得後は、本学において研究員として2年4ヵ月の間、研究活動に従事してまいりました。

博士後期課程および研究員の期間中は、スポンジ状の固体燃料に液体酸化剤を浸み込ませたロケット推進剤の基礎研究や、灯油といった液体燃料を高効率かつクリーンに燃焼させるための燃焼手法・燃焼機器の開発に取り組んでおりました。今後は、基礎研究に注力しながらも、応用研究にも積極的に取り組み、持続可能なエネルギー利用の実現や環境負荷の低減に向けた取り組みを進めていく所存です。また研究活動を通じて、学生との実験や議論の場を大切にし、学生の主体的な学びを支援する教育を目指してまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



機械工学系 助教 石井 裕樹

2024年4月1日付で機械工学系 材料機能制御研究室（戸高研究室）の助教に着任いたしました石井裕樹と申します。出身は千葉県南房総市（旧 安房郡三芳村）で、千葉県立安房高等学校、茨城大学工学部機械工学科、茨城大学大学院理工学研究科機械システム工学専攻を経て、2024年3月に茨城大学大学院理工学研究科複雑系システム科学専攻で博士（工学）を取得後、本学へ着任いたしました。茨城大学には学部1年から博士2年を早期修了するまで8年間在籍しており、茨城県水戸市（学部1年）、同日立市（学部2年以降）で生活しておりました。当時の指導教員である倉本繁教授をはじめ、伊藤吾朗名誉教授、小林純也准教授、大阪大学 堀川敬太郎准教授のご指導の元、アルミニウム合金の高強度・高延性化と耐水素脆性抑制のための組織制御法に関する研究を行って参りました。本学では、材料機能制御研究室の戸高義一教授、足立望准教授、安部洋平准教授のご指導の元、金属材料の力学特性、組織制御、塑性加工等に関する研究に従事させていただいております。茨城大学ではアルミニウム合金を専門としておりましたが、4月からは鉄鋼材料、チタン合金、金属ガラス等へも対象を広げております。所属する材料機能制御研究室は、機械工学系の中でも歴史のある研究室であり、これまでに梅本実名誉教授、土谷浩一先生（物質・材料研究機構 若手国際センターセンター長、筑波大学 名誉連携教授）がおられた歴史もあることから、身の引き締まる思いで着任させていただきました。生まれから大学院まで関東地方で生活しており、博士課程修了後に東海地方（豊橋・東三河）で生活するとは予想していませんでしたが、様々な文化に触れることができ、日々楽しく生活しております。これまでにご指導いただいた皆様方の存在があってこそ、豊橋での良縁に恵まれたと痛感しております。若輩者ではございますが、教育・研究の双方に専念して参る所存でございます。末筆ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



機械工学系 助教 倉石 孝

このたび、省エネルギー工学研究室の助教として着任いたしました倉石孝と申します。出身は千葉県で、高校卒業後に早稲田大学へ入学し、創造理工学研究科にて博士前期・後期課程を修了、博士（工学）を取得いたしました。修了後は1年間同大学で研究員として勤務し、その後ライス大学にて約4年間ポスドク研究員として研究活動に従事してまいりました。

専門は数値流体力学で、主にタイヤまわりの空気の流れを対象に研究を行っております。タイヤは走行中に常に回転し、荷重による変形も生じるため、接地面近傍での形状変化が流れ場に与える影響を把握することが、設計開発の上で非常に重要です。私は数値解析を用いて、実形状のタイヤまわりの空気の流れ場を捉える研究に取り組んできました。具体的には、タイヤ単体を対象とした流体解析から着手し、路面の粗さを考慮したモデルや車体全体を含む流体解析へと段階的に研究を進展させてきました。

今後は、本学の省エネルギー工学研究室の一員として、これまでの知見と技術をさらに深め、タイヤのみならずより広い分野へ貢献できるよう努力していく所存です。

研究室だより 機械工学系

ハイスループットマイクロ・ナノ工学研究室の近況報告

教授 永井 萌土

豊橋技術科学大学のハイスループットマイクロ・ナノ工学研究室は、2022年に始まったばかりの新しい研究室です。私は前にマイクロ・ナノ機械システム研究室にいて、そこから独立して新しい研究室ができました。まだ新しい研究室ですが、今では学部生から博士の学生まで合わせて31名もの学生がいます。そのうち13名が外国からの留学生で、国際的な雰囲気の研究室に育ってきました。彼らは、それぞれの国の文化や考え方を持ち込み、研究室に新しい風を吹き込んでくれています。

研究室の雰囲気は自由で、学生が自分で考えて行動することを大切にしています。英語でも発表することで、日本人学生と留学生と一緒に学び、話し合ってお互いの考え方を理解し、世界を広く見られる目を養っています。このような環境で学生たちは各研究テーマに取り組み、世界中の仲間と意見を交換して成長しています。

私たちの研究室は、マイクロ・ナノ機械システム研究室とも仲良く協力しています。一緒に輪講をしたり、学生の部屋や実験室を共有したりしています。次世代半導体・センサ科学研究所も一緒に使えるので、研究を進めるのに便利です。

研究の中心は、細胞を使ったマイクロ・ナノ技術

の開発です。特に力を入れているのが「ハイスループット」という技術です。これは一度にたくさんの細胞を調べたり扱ったりする便利な方法です。この技術は、新しい薬を作ったり、細胞を使った治療に役立ったりします。単一細胞を流す小さな装置を使って細胞を育てたり、光を使って細胞の中に物を入れたりする研究をしています。藻類を使ったドラッグデリバリーも取り組んでいます。また機械学習を使って、細胞を認識する技術も開発しています。これらの研究では、生命の仕組みを理解し、病気の治療に役立てることを目指しています。

研究室を卒業した学生たちは、半導体や医療機器の会社で働くことが多くなっています。私たちの研究が、今の社会で必要とされていることを感じさせられます。卒業生たちは、研究室で学んだ技術や考え方を活かし、おのおの場所で活躍しています。私たちの研究室は、新しい仲間をいつでも歓迎する開かれた場所です。詳しい研究の内容や活動は、研究室のホームページ¹やResearchmap²でご覧いただけます。研究室に興味を持った同窓生の皆さんは、ぜひ遊びに来てください。

1 研究室 HP : <https://hmn.me.tut.ac.jp/>

2 Researchmap : <https://researchmap.jp/moeto>



材料機能制御研究室の近況報告

博士前期課程1年 外輪 弘太郎

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

「材料機能制御研究室」は、戸高義一教授、足立望准教授、そして昨年度から極限成形システム研究室を率いていた安部洋平准教授と、今年度から新たに石井裕樹助教が加わり、4名の先生のご指導のもと、運営されています。研究室のメンバーは、教員4名、秘書1名、博士学生2名、修士学生19名、学部学生11名、特別研究学生1名の合計で38名の大所帯です。(写真1) このメンバーの中には、中国、ベトナム、メキシコからの留学生も含まれ、国際色豊かな面々となっています。留学生と日本人学生の間には、お互いに言語の壁がありますが、研究や歓迎会、食事などを通して積極的にコミュニケーションをとり、一人一人が協力し切磋琢磨し合いながら、日々研究に取り組んでおります。

本研究室では、加工プロセスを利用したマルチスケールな材料組織制御、および、そのための合金設計を駆使し、鉄鋼材料などの構造材料からエネルギー変換材料の機能材料における特性・機能の高度化や新規材料の創製に関する研究を行っています。また、それらに加えて、塑性変形制御に基づく成形限界向

上に関する研究も行っており、幅広い研究領域に注力しております。研究室に安部先生が加わって間もないため、それぞれのテーマごとに担当教員が分かれており、現状として材料組織制御と塑性変形制御を包含した研究については日が浅いですが、今後はこれらの領域をさらに融合させた研究体制への移行を計画しています。このように、材料科学の基礎から応用に至るまで、多様な視点から課題にアプローチすることで、産業や社会に貢献する新たな知見と技術の創出を目指しています。

大学内における生活では、本研究室の学生・教員は研究のみならず、大学のイベントへの参加にも積極的です。最近では、学友会主催の駅伝大会に参加し、修士1年と修士2年の学生がそれぞれチームを組み参加しました。(写真2) 惜しくも修士2年チームは4位、修士1年チームは8位の結果となりましたが、来年こそは入賞しようとリベンジに向け、トレーニングに励んでいます。

卒業生ならびに修了生の皆様におかれましては、大学の近くに立ち寄る機会がございましたら、ぜひ研究室にもお立ち寄りいただければと存じます。心よりお待ちしております。末尾ながら、皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。



ロボティクス・メカトロニクス研究室の近況報告

修士2年 今野 麟太郎

卒業生・修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。現在ロボティクス・メカトロニクス研究室では佐藤 海二教授、佐野 滋則准教授、武田 洸晶助教の下、修士2年8名、修士1年9名、学部4年8名が日々様々な研究に励んでおります。本研究室では、精密メカトロニクス・ロボット、建設分野、農業ロボット、福祉ロボット、およびその要素技術の研究に取り組んでいます。精密メカトロニクス分野では、機械・アクチュエータ技術と計測制御技術を融合し、実用性を重視した高い利便性と高性能を両立するメカトロニクス・ロボットの研究や、感温磁性体とレーザ、永久磁石を組み合わせたアクチュエータ・小型マニピュレータシステムの開発を行っています。感温磁性体は温度変化によって磁気特性が変化する材料で、これを用いることで簡易な構造で、完全ワイヤレスで駆動・制御可能なアクチュエータを構成できます。そしてこの特性を利用した小型マニピュレータシステムの実現を目指しています。建設分野では、ベルトによって壁面に吊り下げられる壁面昇降ロボットの開発を行っています。本ロボットは、多くが高所作業で危険を伴う建築物外壁面作業を人の代わりにを行い、安全性の向上を目標にしています。また、タワークレーンの荷

振れ制御の研究を行っています。タワークレーンは、巨大かつ構造的も特殊であり、様々な現象を考慮する必要があります。現在は、強風などの外乱のオペレータの構築などに携わっています。農業ロボット分野では、ブルーベリー収穫ロボットの開発を行っています。本ロボットは、各果実の状態を把握し、収穫作業全体の管理を目標としています。福祉ロボット分野では高齢者が日常生活で行う動作を支援する研究が進められています。肘おきに昇降機構を有した歩行器型ロボットで起立、歩行、着座の一連の動作を支援します。少数のセンサを用いて使用者の状態推定を行い、その結果から、支援を適切に行うことに取り組んでいます。使用中に何らかの異常が起こった場合は、その異常に対して福祉ロボットが適切に対応できるようにすることにも取り組んでいます。また、適切なコミュニケーションによって直接、体に触れるロボットであっても不安感なく使用できることを目指しています。前回の同窓会報では問題となっていたコロナウイルスによる制限も解け、学内、研修室にも活気が戻ってきており、今後もより一層の努力と研鑽に励む所存です。最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



省エネルギー工学研究室の近況報告

博士前期課程2年 吉岡 進也

本学卒業生並びに修了生の皆様におかれましては
お元気でご活躍のことと存じます。省エネルギー工
学研究室の近況についてご報告申し上げます。2024
年度の本研究室では横山博史教授と今年度着任され
た倉石孝助教のもと、博士前期課程10名、学部生8
名が在籍しています。

本研究室では研究室の名称でもある「省エネ
ルギー」を軸として流体力学、音響学、熱力学に関連
する研究テーマを扱っており、現在大きく分けて4
つのテーマが進行中です。1つ目は、空力音の発生
メカニズムの解明・制御を目的とした研究です。自
動車や新幹線などの輸送機械やファンなどの流体機
械で発生する空力騒音の抑制に取り組んでいます。ま
た、熱音響効果を利用し、騒音からエネルギーを回
収する研究にも取り組んでいます。2つ目は二酸化
炭素を回収する方法の1つである物理吸着に関する
研究です。最近の研究により物理吸着が音響加振
により促進されることが明らかになっています。3
つ目は、流体内部に電気的な力を作用させ、流体の
輸送や制御を実現する電気流体力学（EHD）に関
する研究です。小型・軽量の流体輸送システムを実
現するため、最適な電極形状・流路形状を実験・数
値解析の両面から調査しています。またプラズマア
クチュエータを用いた流体や空力音の制御にも取り

組んでいます。4つ目は、流体の蒸発潜熱と多孔体
の毛細管力を利用した熱輸送デバイスであるルー
プヒートパイプ（LHP）の研究です。宇宙機の熱制
御にも利用されるLHPの高性能化や太陽熱を利用
したLHPの開発にも取り組んでおります。

ここ数年はコロナ禍も落ち着きを見せており、自
粛していた活動も再開されています。今年度は修士
2年生2名がオランダで開催された国際会議にて発
表を行いました。また、研究室内の行事として、昨
年度から毎年恒例の研究室旅行を再開し、研究室内
の親睦を深めることができました。

なかなか先の見通せない時代ではありますが、「省
エネルギー」はコロナ後の時代でも変わらない世界
の課題と考え、より一層研究に取り組んでいく所存
です。末筆ながら、卒業生・修了生の皆様の益々
のご活躍を祈念しますと共に、今後とも研究室にご
支援下さいますようお願い申し上げます。



学内近況報告

准教授 山根 啓輔

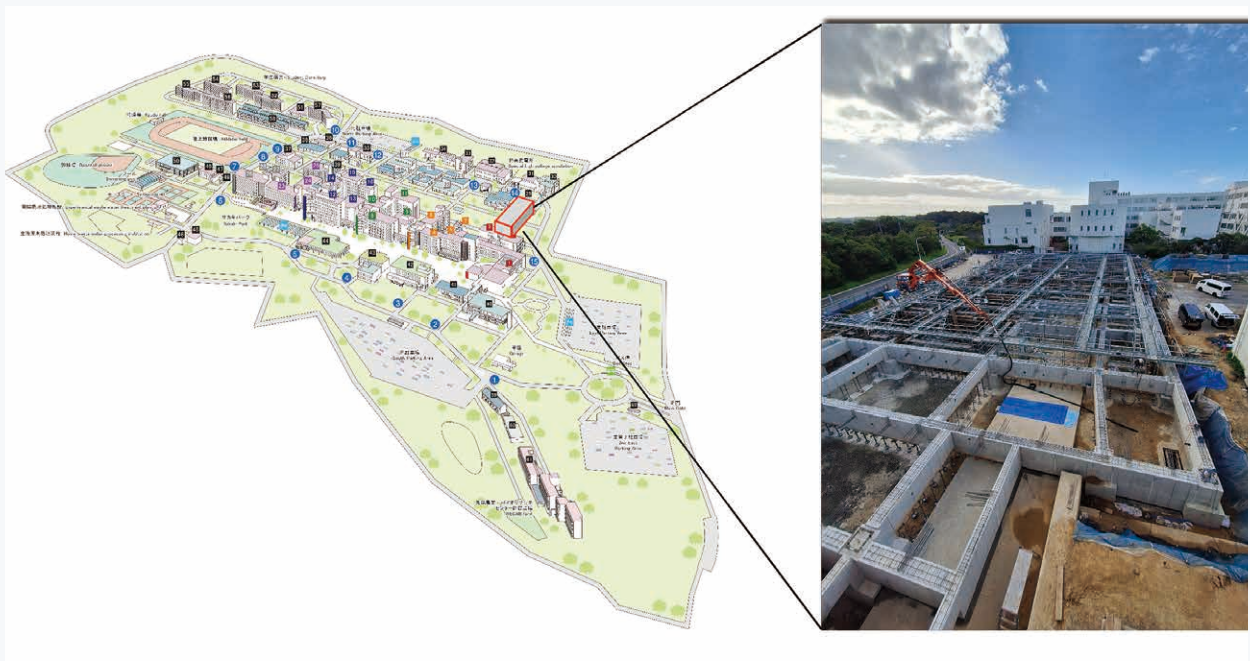
卒業生・修了生の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

2023年度も電気・電子情報工学系に100名を超える新しい学生たちが入学・編入してきました。また、教職員に関するご報告の一つとして、次世代半導体・センサ科学研究所 教授 高橋 一浩先生が永井科学技術財団 学術賞を電気・電子情報工学系 助教 引間 和浩先生が田川記念固体化学奨励賞を受賞しました。この他にも、多数の教員・学生が研究に関わる賞を受賞しております。本系研究者・学生の活躍を謹んでご報告させていただきます。

次に、2023年度の先生方の異動についてご報告させていただきます。まず、2024年3月末をもちまして服部敏明先生がご定年により退職されました。機能電気システム分野から講師の針谷達先生が岐阜大学へ、同分野助教の坂東隆宏先生が民間企業へ転出され

ました。また、材料エレクトロニクス分野から助教の安永弘樹先生が三重大学へ転出されました。一方で、2024年4月より、情報通信システム分野の助教としてMaodudul Hasan先生が着任されました。

以上が電気・電子情報工学系の2023年度の近況報告になります。さて、2024年度は大学の世界展開力強化事業、大学・高専機能強化支援事業に採択されました。また、次世代半導体・センサ科学研究所 (IRES2) の拡張(写真)などが進んでおり、本系でも新たな人材育成、教育研究の取り組みが活性化しております。今後も本系教職員一同、社会に貢献できる人材育成と教育研究活動に一層取り組んでまいりますので、同級生の皆様には変わらぬご支援とご鞭撻をいただければ幸いです。



次世代半導体・センサ科学研究所 (IRES2) の拡張の様子 (写真は飛沢健 氏提供)

教職員紹介 (令和6年12月31日 現在)

【材料エレクトロニクス分野】

教 授	松田 厚範、内田 裕久、八井 崇、服部 敏明、 武藤 浩行 ^{*1} 、Lim Pang Boey ^{*2}
准 教 授	中村 雄一、河村 剛、加藤 亮 ^{*3} 、勝見 亮太
助 教	引間 和浩

【機能電気システム分野】

教 授	滝川 浩史、稲田 亮史、村上 義信
准 教 授	川島 朋裕、東城 友都

【集積電子システム分野】

教 授	澤田 和明、石川 靖彦、岡田 浩 ^{*1} 、河野 剛士 ^{*4} 高橋 一浩 ^{*4}
准 教 授	関口 寛人、山根 啓輔、崔 容俊、野田 俊彦 ^{*4}
助 教	Piedra Lorenzana José Alberto
特 任 助 教	土井 英生

【情報通信システム分野】

教 授	市川 周一、上原 秀幸、田村 昌也、市坪 誠 ^{*5}
准 教 授	竹内 啓悟、Xun Shao、羽賀 望
助 教	小松 和暉、Maodudul Hasan

【研究推進課技術支援係】

技術専門職員	日比 美彦、飛沢 健、赤井 大輔
--------	------------------

^{*1}総合教育院、^{*2}グローバルネットワーク推進センター、
^{*3}教育研究基盤センター、^{*4}次世代半導体・センサ科学研究所
^{*5}高専連携地方創生機構

研究室だより 電気・電子情報工学系

高電圧応用・計測研究室 (川島研究室) の近況報告

准教授 川島 朋裕

卒業生・修了生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

本研究室「高電圧応用・計測工学研究室」は、川島が2024年4月より准教授に昇任したことを機に、主宰することになった新しい研究室です。その母体は、開学当時からの歴史が古い研究室であり、小崎正光教授、長尾雅行教授、穂積直裕教授、村上義信教授（現在、本研究室と一部研究テーマを共同で実施。）によって発展してきた、高電圧工学の研究室です。現在、博士前期課程1名、学部4名の5名で日々研究に励んでおります。

本研究室のキーワードは、研究室名にも含まれる「計測」にあります。特に力を入れているテーマは、高電圧絶縁システムを対象とした、非破壊計測技術による状態診断の開発です。放電信号の特微量を時系列解析することで、単純な大小比較による材料の良し悪しの評価だけでなく、高電圧絶縁システムの状態を電気的な物理量で定量化することを目指しています。

また、電力分野で磨かれた技術を他分野へ展開することも模索しています。誘電液体アクチュエータの連続動作の評価や、食品のリアルタイム状態診断など、ロボットや食品分野に活動を広げています。

2024年度は、コロナ渦の影響が完全に消え去り、研究室の行事も活発に行える状態になりました。名古屋大学の栗本宗明准教授、九州工業大学の小迫雅裕教授との研究交流会を開催し、学生が日頃の研究成果を議論できる場を設けることができました。また、研究以外では、夏休みのゼミ合宿も開催し、親睦を深めることができました。

ご多忙と存じますが、豊橋方面に来られる機会がありましたらお気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、心から歓迎いたします。最後になりましたが、諸先輩方の更なるご活躍とご健康を心よりお祈りしております。



栗本宗明准教授との研究交流会



ゼミ合宿で訪れた上高地

学内近況報告

系長 南 哲人

同窓生のみなさまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

生成 AI の技術はこの一年でめまぐるしい進化を遂げ、社会や産業界に大きな影響を与えています。それに伴い、今年度のノーベル物理学賞は、人工ニューラルネットワークによる機械学習を可能にした基礎的発見と発明に対する業績に対して、米プリンストン大学のジョン・ホップフィールド氏、カナダトロント大学のジェフリー・ヒントン氏の両氏に授与されました。また、ノーベル化学賞は、コンピューターを用いたタンパク質の設計と構造予測の功績で、米ワシントン大学のデイヴィッド・ベイカー氏、英国 Google DeepMind のデミス・ハサビス氏とジョン・ジャンパー氏に授与されました。このような状況の中、情報工学への関心や人気も一層高まり、分野としての発展も目覚ましいものがあります。しかし、私たちはその発展に慢心することなく、教育および研究を着実に進めていく所存です。時代の変化は加速度的であり、情報工学の定義そのものも時代に合わせてアップデートし続ける必要があります。

本年度も教員の異動がありました。まず、渡辺 一帆先生が新たに教授に昇進されました。また、2024 年度をもって梅村 恭司先生、藤戸 敏弘先生、そして河合和久先生の3名が退職されました。いずれの先生も本学において長年にわたり教育と研究に貢献され、多くの卒業生が学术界や産業界で広く活躍しています。

教育プログラムについては、本学が「大学・高専機能強化支援事業」に選定されました。この支援事業により、情報・知能工学系の修士課程の定員が15名増加することとなり、教育と研究の両面でさらなる機能強化を図ることを目的としています。本学の取り組みが評価された結果として選ばれたものであり、これに

よりより多くの学生が最先端の教育を受けられる環境が整えられます。

国際教育に関しても新たな進展がありました。2020年に開始された「近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム(IMLEX)」は、2024年7月にエラスムス+プログラムに採択されました。IMLEXプログラムには、東フィンランド大学、フランスのジャン・モネ大学、ベルギーのKUルーヴェン大学、そして本学がフルパートナーとして参加しています。本学がフルパートナーとして参加していることで、教育および研究の中心的な役割を果たし、プログラムの発展に大きく寄与しています。これにより、2025年からは新たな体制でIMLEXプログラムを運営していくことになります。

最後に、全学的な話となりますが、次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)に採択され、博士課程学生への支援が進んでいます。また、社会人博士へのサポート体制も充実させ、長期履修制度の導入や、オンラインを活用した研究指導など、働きながら学べる環境の整備も進んできております。同窓生の皆様におかれましても、職場の同僚やご友人で、社会人ドクター取得に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ豊橋技術科学大学情報・知能工学専攻をご紹介いただければ幸いです。

教職員一覧及び学生現員（2024年10月現在）

【計算機数理科学分野（Computer & Mathematical Sciences）】

氏名	職名	専門分野
鈴木 幸太郎	教授	情報セキュリティ
川端 明生	教授	スイッチングシステム、並列分散処理システム、ネットワークアーキテクチャ、ネットワーク品質
後藤 仁志	教授	計算化学、ハイパフォーマンスコンピューティング（情報メディア基盤センター 兼任）
栗田 典之	准教授	量子生物学、計算科学、生命情報科学
佐藤 幸紀	准教授	計算機アーキテクチャ、計算機システム、ソフトウェア性能工学
ダラルノ ミケレ	准教授	量子情報
五十幡 康弘	准教授	計算化学、量子化学、理論化学（情報メディア基盤センター 兼任）
中村 純哉	准教授	分散アルゴリズム、分散システム、耐故障（情報メディア基盤センター 兼任）
原田 耕治	准教授	理論生物学、複雑系（IT活用教育センター 兼任）
相田 慎	助教	計算量理論、アルゴリズム理論
中井 雄士	助教	情報セキュリティ、暗号理論

【データ情報学分野（Data Informatics）】

氏名	職名	専門分野
北岡 教英	教授	音声情報処理
土屋 雅稔	教授	自然言語処理
渡辺 一帆	教授	統計的学習理論、機械学習
秋葉 友良	准教授	音声言語処理、自然言語処理、情報検索
若林 佑幸	助教	音響信号処理
青野 雅樹	特任教授	データサイエンス、情報検索（特に3D検索、画像検索、映像検索）、深層学習、テキストマイニング
浅川 徹也	特任助教	深層学習、情報検索、異常検知

【ヒューマン・ブレイン情報学分野（Human & Brain Informatics）】

氏名	職名	専門分野
中内 茂樹	教授	視覚認知情報学、視覚技術
北崎 充晃	教授	知覚心理学、認知神経科学、バーチャルリアリティ
南 哲人	教授	認知神経科学
松井 淑恵	教授	聴覚心理学、音楽心理学、演奏科学（次世代半導体・センサ科学研究所 兼任）
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能、神経情報科学
上原 一将	准教授	神経科学、神経工学
鯉田 孝和	准教授	神経科学（次世代半導体・センサ科学研究所 兼任）
杉本 俊二	助教	神経科学
上田 祥代	助教	知覚心理学、認知科学
日根 恭子	助教	認知科学、視覚科学
田村 秀希	助教	視覚科学、感性情報学

【メディア・ロボット情報学分野（Media Informatics & Robotics）】

氏名	職名	専門分野
岡田 美智男	教授	コミュニケーションの認知科学、社会的ロボティクス、ヒューマン・ロボットインタラクション
栗山 繁	教授	モーション・メディアとグラフィックス、モーションデータの生成と解析、AIに基づく画像メディアの生成
三浦 純	教授	知能ロボティクス、ロボットビジョン、人工知能
垣内 洋平	教授	ロボットシステム、ヒューマノイドロボット（エレクトロニクス先端融合研究所 兼任）
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン、画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
大村 廉	准教授	ユビキタス・コンピューティング、ウェアラブル・コンピューティング、分散システム、オペレーティング・システム
長谷川 孔明	助教	ヒューマンエージェントインタラクション、社会的ロボティクス、インタラクションデザイン
林 宏太郎	助教	ヒューマン・ロボットインタラクション、認知科学、社会学
顧 淳祉	助教	視覚情報処理、パターン認識、深層学習

【事務関係】

事務職員：中井 絃余（C棟事務室）
佐藤 静香（F棟事務室）、滝川 陽子（F棟事務室）
技術職員：小西 和孝

【学生現員】

学部：1年次 33名、2年次 31名、3年次 124名、4年次 121名
博士前期：1年次 92名、2年次 107名
博士後期：21名

退職教員より

情報・知能工学系 教授 藤戸 敏弘



私が広島大学、名古屋大学を経て本学に着任したのは2004年9月、今から19年半前になります。

研究会で一度訪れたことはあるものの、初めて経験する単科大学、技科大のことを、

その成り立ちも含めよく知らず、着任前の6月平日昼間に訪れた際、学内にあまり学生を見かけないのが不思議で、「今、学期中ですね？」と中川先生に尋ねたところ、「今授業中だからじゃない？」と言われ驚いたことをよく覚えています。

この機に本学で過ごした19年半を改めて振り返ってみます。

まず研究室、初めて自分で主宰する研究室でしたが、多くの先生方や学生達に支えられてようやく幕を閉じられることに安堵しております。前任の永持先生時から引き続き残ってくれた石井利昌先生（現北海道大学教授）、自身初の公募採用で来てもらった岡本吉央先生（現電気通信大学教授）から始まり、藤原洋志先生（現信州大学教授）、木村慧先生（現九州大学准教授）、そして和佐州洋先生（現法政大学准教授）と、現在我が国の理論計算機科学分野を牽引する錚々たる先生方には、それぞれの個性を發揮しながら、学生や私を優しく丁寧に指導・手助けしてくださいました。今日の離散最適化研究室の在り様は、これらの先生方により形作られたものに他ありません。

教育については、たまたま目にした、元グーグル、スタンフォード大教授のセバスチアン・スラン氏に

よる、Udacity という MOOC 立ち上げの記事に刺激を受けたことを思い出します。世界的名門大学から良質の教材が大量に無料で提供され、インターネットと英語さえ使えば、世界中の誰もがどこからでも利用できるという教育のあり方には大いに考えさせられるものがあり、本学の特色である「らせん型教育」にも関わらず、むしろ高専の専門カリキュラムとの差別化を図るよう講義内容を刷新しました。一部（？）受講生には負担が大きく不評だったかもしれませんが、情報系のような変化の激しい分野では致し方ないのではと考えています。

研究については、最初から最後まで、自分の好きな、いわゆる理論計算機科学を専門分野とさせていただきました。実学重視の本学において、またアプリケーション指向の高まる世の潮流の中であって、一行もプログラムを書かず、計算機実験も行わず、ひたすら考え続ける、そのような理論研究を許容してくださった本学（の懐の深さ）に、（中には嫌々ながら？）付き合ってくれた研究室学生に感謝します。

また、あまり貢献はできませんでしたが、大学の管理運営にもある程度携わらせてもらえたのは、本学が大規模総合大学ではない、そのおかげではなかったかと思います。様々な局面で多くの方々、特に情報・知能工学系（および旧情報工学系）事務、教務課、入試課の方々には大いに助けていただきました。

最後となりますが、ここに挙げた方々だけでなく、本当に多くの本学関係者に支えられ、そのおかげで何とか無事定年を迎えられます。改めて厚く御礼申し上げます。



研究室だより 情報・知能工学系

分散システム研究室の近況報告

修士2年 梶浦 真帆

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

本稿では、2022年度に設立された分散システム研究室について紹介させていただきます。現在、本研究室では中村准教授の指導のもと、博士前期課程の学生4名と学部生2名が、分散システムの実用と理論の両面から日々研究を進めております。分散システムは、ネットワークで接続された複数のコンピュータが協調することで、処理性能や障害耐性の向上を図る技術です。中でも、本研究室では大きく3つのテーマに取り組んでいます。

(1) 耐ビザンチン故障レプリケーション：分散システムにおいて、一部のコンピュータが故障しても、システム全体は故障の影響を受けずにサービスの継続を可能にするレプリケーション技術です。アルゴリズム開発や実装の最適化を通じて、優れた障害耐性を備えた分散システムの実現を目指します。

(2) 機械学習を活用したネットワーク型侵入検知システム：スケーラブルな分散処理により、ネットワーク内で発生する不正アクセスや異常な動作を自動的に検出するシステムの高速化を目指します。

(3) 自律移動ロボットの協調動作に関する理論的解析：複数の自律的に動くロボットが連携しながら特定のタスクを遂行する際の動作やアルゴリズムを理論的に分析し最適化を目指します。

このように、情報システムやネットワーク、理論

計算機科学など、様々な側面から課題にアプローチすることで、分散システムの実用性能向上を目指しています。

また、研究成果の発信にも積極的に取り組んでいます。今年度も学会への参加や論文投稿を行い、いくつかの発表が高く評価され表彰されました。学会発表では現地で他大学の学生や研究者と交流を深め、多くの知見を得ることができました。さらに、現地の食事や観光も楽しみ、良い気分転換となりました。こうした成果や交流をモチベーションに、日々の研究に取り組んでいます。

本研究室では、同じく情報・知能工学系のユビキタス研究室と合同でミーティングや輪講、発表練習を行い、互いに刺激を受けながら成長を続けています。また、新入生歓迎会や夏のBBQといったイベントを通じて、学生同士の親睦を深めています。

最後に、卒業生・修了生の皆様のご健勝と、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。お近くにお越しの際は、ぜひ研究室へお立ち寄りいただき、皆様のお話をお聞かせください。研究室一同、皆様にお会いできることを心より楽しみにしております。



視覚心理物理学研究室の近況報告

修士1年 坂田 龍星

視覚心理物理学研究室は、バーチャルリアリティや認知神経科学、機械学習といった最先端技術を駆使し、未来の社会をより豊かにするための研究を推進しています。個性豊かなメンバーが集い、活発な議論と自由な発想を奨励する環境の中で、常に新しい発見と挑戦に満ち溢れた研究活動を行っています。

私たちの研究テーマは多岐に渡り、バーチャルリアリティによる身体編集技術を用いた自在化身体研究、マルチモーダル刺激によるバーチャル歩行システムの開発、ロボットなど人以外を対象とした共感の解明など、最先端技術を駆使した革新的な研究に取り組んでいます。具体的な例として、足裏に振動を与え、自分のアバターが歩いている姿を観察することで、実際には座っているにも関わらずあたかも歩いているように感じるバーチャル歩行システムを作っています。私の研究は、それを活用して寝ている状態でも起き上がって歩き出す感覚を作り出すことです。

研究室の活動は、単に論文を発表するだけではありません。国内外の学会やワークショップへの積極的な参加、企業との共同研究開発など、外部との連携を強化することで、研究成果を社会実装へと繋げ、社会貢献を目指しています。特に最近、技科大のメタバースを作成し (<http://vr.tut.ac.jp>)、それを地域の一般の方々や企業関係者に体験してもらう展示

会への参加を積極的に行っています。ブラウザでも体験できるものが多いので、ぜひご体験ください。

研究室は、常に活気に満ち溢れており、年齢やバックグラウンドも異なるメンバーが、互いに学び合い、刺激し合いながら、それぞれの研究テーマに熱心に取り組んでいます。研究室の雰囲気は非常に自由で、教授や先輩方は、学生の自主性を尊重し、常に新しいアイデアに挑戦することを奨励してくれます。議論や意見交換を通して、自分の考えを深め、新たな視点を獲得できる環境は、研究者や開発者として大きく成長するための絶好の機会となっています。

研究室では、定期的にゼミや研究会を開催し、最新の研究成果や論文、VR開発などの技術について議論しています。これらの活動を通して、メンバー全員が常に最新の技術動向を把握し、研究の質を高めるよう努めています。また、時には研究室メンバーで食事に行ったり、スポーツをしたりと、研究以外の時間でも親睦を深めています。このような温かい人間関係は、研究室生活をより充実したものにしてくれます。

北崎研究室は、単なる研究室ではなく、未来を創造していくための仲間が集う場所です。私たちは、常に新しい技術に挑戦し、社会に貢献できる研究成果を生み出すことを目標としています。



応用化学・生命工学系の近況

応用化学・生命工学系 系長 齊戸 美弘

卒業生・修了生の皆様におかれましては、お元気にご活躍のことと存じます。応用化学・生命工学系の近況についてご報告いたします。

前号の同窓会報以降、応用化学・生命工学系の教員の異動はございませんが、兼務教員として本系の教育・研究に関わっていただきました、次世代半導体・センサ科学研究所 (IRES2) の田中三郎教授と教育研究基盤センターの中野裕美教授が2024年3月末に定年で退職されました。なお、田中三郎先生は、IRES2 寄附研究部門の特定教授として引き続き研究に従事されています。

2024年度は、系長が小職、副系長が手老龍吾教授および原口直樹教授の2名で、応用化学・生命工学系の運営を担当しています。本系に所属する教員は、分子制御化学、分子機能化学、分子生物化学の各分野で引き続き活発な教育・研究活動を行なっています。現在の研究室一覧および教員配置は、別表をご参照ください。

質の高い教育・研究活動を証明するかのよう、前号の同窓会報以降も、教員・学生の受賞や、研究成果のプレスリリース等がありました。最新の情報は、本学ホームページ (<https://www.tut.ac.jp/>) あるいは応用化学・生命工学系ホームページ (<https://chem.tut.ac.jp/>) をご覧ください。

本系における今年度の大きな取り組みとして、2023年度までの6年間認定を受けていましたJABEE (日本技術者教育認定機構) の受審が挙げられます。2024年度以後も認定を受けられるよう、昨年度から受審に向けた検討を重ね、各評価項目に対応したワーキンググループの設置、審査関連資料の整理や規則・制度の確認など、水嶋教授を中心に準備を進めて参

りました。2024年10月に行われた実地審査では、審査委員から高い評価をいただき、認定が継続される見込みです。今後も教育プログラムの改善に取り組み、優秀な人材を輩出することで社会貢献できるよう一層努力いたします。

以上、応用化学・生命工学系の近況をご紹介いたしました。同窓生の皆様におかれましては、本系の教育・研究活動に引き続きご支援とご鞭撻をよろしく願いたします。末筆ながら、皆様の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

教職員一覧（令和6年11月現在）

【分子制御化学分野】

機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授
マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 教授 中神 光喜 助教
機能性高分子化学研究室	原口 直樹 教授
環境材料工学研究室	吉田 絵里 准教授

【分子機能化学分野】

機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 教授 佐藤 裕久 助教 大北 博宣 助手
反応エネルギー工学研究室	小口 達夫 准教授
高分子材料工学研究室	荒川 優樹 准教授

【分子生物化学分野】

分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授
反応性プラズマ科学研究室	高島 和則 教授
界面物理化学研究室	手老 龍吾 教授
遺伝子工学研究室	田中 照通 准教授
分子細胞生物工学研究室	栗田 弘史 准教授
ゲノム光生物学研究室	広瀬 侑 准教授

	藤澤 郁英 助手
--	----------

【兼務教員 (IRES² 戦略)】

次世代半導体・センサ科学研究所	有機反応化学研究室	柴富 一孝 教授
-----------------	-----------	----------

【兼務教員】

次世代半導体・センサ科学研究所	生体機能制御工学研究室	沼野 利佳 教授
次世代半導体・センサ科学研究所	光センシング応用研究室	有吉 誠一郎 准教授
ダイバーシティ推進センター	生命機能科学研究室	吉田 祥子 教授
学生支援統括センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授
先端農業・バイオリサーチセンター	応用共生学研究室	中鉢 淳 准教授

【応用化学・生命工学系事務室】 河合 充代 (B棟) 横井 妙 (G棟)

研究室だより 応用化学・生命工学系

機能性界面科学研究室(松本研)の近況報告

修士2年 香川 晃輝

機能性界面科学研究室の卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方に置かれましては、日々ご健勝のことと存じます。

機能性界面科学研究室(松本研)には松本明彦教授のもと大学院学生(博士前期課程)5名、学部学生4名の計10名が在籍して、日々研究活動に励んでいます。

現在、機能性界面科学研究室では、機能性多孔体であるゼオライト、活性炭素繊維、メソポーラスシリカへの気体分子吸着と表面化学組成の制御に加えて、ジオポリマーへの吸着に関する研究を行うとともに、新規な有機高分子-無機物質複合材料の開発を目的とした、無機固体フィラー表面の化学組成の制御と特性化を研究しています。具体的な研究テーマは次の通りです：1. ゼオライトのCO₂吸着機構の解明、2. VPSAシステムを用いたCO₂吸着のサーマルマネジメントによる高効率化、3. ミクロ多孔性活性炭素への高圧CO₂吸着、4. 多孔性炭素表面の化学修飾による吸着制御、5. アルミノシリケートジオポリマーの多孔化と吸着特性化、6. メソ多孔性シリカの構造安定化と吸着性制御、7. 無機固体の表面化学組成制御による新規複合材料フィラーの開発。研究のほかには、従来と同様にコロキウム(報告会)、

セミナー(輪講)、カレントセミナー(雑誌会)を行っています。

研究室の行事は新型コロナウイルスの影響でしばらく自粛していましたが、最近では研究室内の歓送迎会、暑気払いなどのレクリエーションも徐々に復活してきました。毎年行っていた信州大学理学部物理化学研究室との夏季セミナーも復活し、今年4年ぶりに参加する予定でしたが、台風10号の影響で直前になって中止になりました。皆楽しみにしていたので大変残念でした。それでも研究の合間はソフトボール、登山、BBQ、相撲などを通してリフレッシュし、研究室メンバーの親睦を深めております。

卒業生、修了生の皆様方におかれましては、大変ご多忙のことと存じますが、豊橋へお越しになる機会がございましたら是非研究室にお立ち寄りください。松本先生が技科大に移って30年以上が経ち、時々、卒業生・修了生の方がいらっしやると、懐かしく皆さんの学生時代の話がされています。私たちも、先輩方の在学中や、卒業・修了後の貴重なお話をぜひお聞かせ頂ければと楽しみにしています。研究室一同楽しみにお待ちしております。先輩方のさらなるご活躍とご健康をお祈り申し上げます。



浴研究室の近況報告

修士2年 鈴木 美緒

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍のことと存じます。それでは、この場をお借りして浴研究室の近況についてご報告させていただきます。

現在、研究室の構成は、浴 俊彦教授、大学院生（修士）6名、学部生5名、技術補佐員1名の計13名で活動しています。2022年4月には助教の広瀬先生が准教授に昇任され、新しい研究室を運営されるようになりました。

現在、浴研究室では大きく3つのテーマで研究を行っています。

1つ目のテーマは、『ゲノム安定性維持に関わる新規RNA干渉遺伝子群の研究』です。現在、ゲノム安定化に関与するRNA干渉機構を明らかにすべく、タンパク質レベルでの研究を進めています。本研究は、医薬品や遺伝子治療への応用が進められているRNA干渉研究やヒトの癌や老化の研究にも大きく貢献することが期待されます。この研究には、現在4名の学生が取り組んでいます。

2つ目のテーマは、『合成生物学に基づくデザイナー酵母の創出』です。これまで、CRISPR/Cas9を用いて、合成生物学的にゲノム改変したデザイナー酵母を作製し、発癌の要因となるDNA傷害性や、細胞傷害を引き起こす酸化傷害性を簡便に検出できるシステムの開発を進めてきました。各傷害に特異的に応答する遺伝子プロモーターを組み込んだレポーター酵母を、DNA損傷や

酸化傷害を検出するためのバイオセンサとして利用します。最近では、デザイナー酵母によるテルペンなどの物質生産への応用を進めており、現在2名の学生が取り組んでいます。これらの研究は、生体有害性評価や稀少物質の製造等への利用が期待されます。

3つ目のテーマは、『DNAメタバーコード解析による土壌生物分析法の開発と農業応用』です。DNAバーコード解析とは、リボソームRNA遺伝子等の特定の遺伝子の塩基配列の違いに基づいて生物種を判別する手法のことです。当研究室では、次世代シーケンサーによる大量の塩基配列解析能力を生かして、土壌生物群集構造を簡便かつ高精度に解析する手法を確立し、農業応用を進めています。現在、大学の圃場や栽培用ハウスを舞台に、5名の学生がこの研究に取り組んでいます。

今年は、新しく5名の学部生が研究室メンバーとして加わり、さらに賑やかな環境になりました。また、広瀬研究室メンバーと一緒に学内BBQや浜名湖での釣り、4系研究室対抗ソフトボール大会に参加するなど、メンバーとの仲が深まるイベントが多かったように思います。

卒業生、修了生の皆様、豊橋の近くに来られた時には、是非、研究室にお立ち寄りください。研究室一同、皆様のご来校を心よりお待ちしております。最後になりましたが、皆様のこれからの益々の御活躍、御発展を心からお祈りしております。



学内近況報告

系長 井上 隆信

同窓生の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

前三浦系長の後を受けて、2024年度から2年間の任期中で系長を務めています井上から近況を報告いたします。

新型コロナの影響もほぼなくなり、平穏な大学に戻っています。対面の講義ができないなどコロナによる負の側面は大きくありましたが、一方、大学の講義では、講義をサポートする管理ツールの google classroom の活用が必須になり、講義資料のアップロード、レポートの提出など、ペーパーレス化が一気に進みました。講義資料をノートパソコンやタブレットで見ながら講義を受けることも一般化しており、講義風景は昔に比べて大きく異なっています。大学教員も従来型の講義ではなく、DXを活用した講義など変革を求められています。また、学内委員会も web での開催が多くなり、対面での良いところと web で良いところを取り入れた運営が行われるようになりました。

昨年は JABEE（日本技術者教育認定機構）の審査があり、建築コースと社会基盤コースの2コースとも、無事6年間の継続になりました。若い先生方を中心に審査資料の作成、web で開催された実地審査への対応などに尽力してもらいました。

2024年10月現在で、本系で学んでいる学生は、学部172名（うち女子42名、留学生5名）、大学院博士前期課程103名（うち女子23名、留学生8名）、博士後期課程24名（うち女子11名、留学生20名）となっています。建設分野の就職が良好なこともあり、多数の学生から志望してもらっています。ただし、大学の定員管理が厳格化されていることもあり、学部の在籍学生数に大きな変化はありません。博士前期課程は、定員が2学年で120名のところ103名と定員割れしており、この傾向が数年

続いています。企業からの就職の勧誘が強く、学部卒で就職する学生が多いため、なかなか定員を満たすことができていません。また、学部生の場合は、学生の希望職種と就職先が必ずしも一致していないことも見受けられるため、3年生に対する就職・進学ガイダンスを早期に行い、また、個別面談を実施することで、学生の意向に基づく進路指導を進めるようにしています。

大学院後期課程は、文部科学省の奨学金留学生の特別枠が2件（2022-2024年と2024-2026年、ともに博士前期課程1名、博士後期課程4名）が採択されており、10月入学の国際コースに多くの留学生を受け入れることができました。このため、定員が3学年で15名に対して、24名が在籍しています。日本人学生も4名在籍しており、今後は日本人の博士後期課程学生の増加にも取り組んでいきたいと考えています。また、女子学生の比率は全体で28%であり、応用化学・生命工学課程・専攻の次に高くなっています。

教職員では、2024年3月末に三浦均也教授と松島史朗教授が定年退職になりました。また、水谷晃啓准教授が10月末で任期満了となり、母校の芝浦工業大学に転出されました。4月には、杉木直准教授が教授に昇任され、新たに藤田大輔教授が着任されました。12月1日現在では、教授10名（1名は高専交流で来年3月まで）、准教授8名、助教7名、技術専門職員2名、事務職員3名の体制となっています。

末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

教職員 現員表

【建築・都市デザイン学分野】

職名	氏名
教授	齊藤 大樹（副系長）、浅野 純一郎、中澤 祥二、田島 昌樹、 中森 康之（兼任）、藤田 大輔（新任）、松本 幸大（兼任）
准教授	小野 悠、島崎 康弘、瀧内 雄二、松井 智哉
助教	坪井 志郎、仲田 章太郎、Park Minjeong

【都市・地域マネジメント学分野】

職名	氏名
教授	井上 隆信（系長）、加藤 茂（副系長）、渋谷 博幸、杉木 直、 山内 正仁、宮本 弘之（新任）
准教授	東海林 孝幸、松尾 幸二郎、松田 達也、横田 久里子
助教	グエン・ミン・ギョク、崔 明姫、豊田 将也、内藤 直人

【両分野】

職名	氏名
技術専門職員	金田 隆文、片岡 三枝子

着任のごあいさつ



建築・都市システム学系 教授 宮本 弘之

2022年4月に総合教育院に着任し、2024年4月から建築・都市システム学系と兼務となりました宮本弘之です。専門は経済学、その中でも家計に関する金融です。貯蓄・投資、借入、保険、決済といった金融行動のメカニズムを研究しています。現在は、金融リテラシー、金融アドバイス、富裕層の資産選択に関心をもっています。本学では経済学関連の教育に従事します。今後の技術者に経済学の見識は不可欠です。経済や社会の事象について自分の頭で考えられるようになる教育を目指してがんばります。どうぞよろしく願いいたします。



建築・都市デザイン学系 教授 藤田 大輔

2024年4月に着任しました藤田大輔と申します。
こどもの遊び・生育環境のあり方を中心に人間と環境の関わりについて研究しています。具体的には利用者1人ひとりの空間的要求を把握し、建築空間のあり方を解明することが中心ですが、近年では既存空間に合わせた空間セッティングや使い方の指導など、建築計画学の新しいタームを構築しようとしています。また、これら研究の知見をベースに設計活動を実践していることが特長です。どうぞよろしく願いいたします。

退職教員より

定年退職にあたって

都市・地域マネジメント学系 教授 三浦 均也



昨年末に人間ドックの結果を通知されてから、年末年始を跨いで悶々としていました。本日午前には市民病院で精密検査の結果を聞かされ、深刻さは低いのですが2、3の経過観察事項について年2回の定期検査を義務付けられました。中学校卒業以来離れて暮らす両親を見ることに支障なさそうで、ようやくこの拙文を手掛ける気になりました。ここ数年は体力や健康の衰えを感じる場面も多くなり、その一方では、生来の物怖じしない性格に磨きがかかり、人前でずけずけと率直な意見を言うことが増えてきたことも気になっていました。1か月後に迎える定年退職は、私にとってはよい潮時と考えています。

本学に赴任したのは2001年10月、アメリカで起こった同時多発テロ（9.11事件）の直後頃から23年半過ごしてきました。10年ほど前には、精神的に落ち込んで活動できなくなり、学内の方や企業の方、家族にもとても迷惑を掛けましたが、多くの励ましや協力をいただいたお陰で何とか任期を全うできるのはありがたいことです。生まれ育った北海道と異なり豊橋は気候が穏やかで、自然災害の影響を直接には受けず過ごしてきました。実家の土建業は雪と氷のために11月から半年間雪かき以外の仕事が無くなることに對し、冬でも活発な生活は羨ましいものでした。

海外の大学で3年間働いた経験がありましたが、本学で過ごしたことは格別でした。前任の北海道大学では、大きな組織と長い歴史ゆえに大様に過ごしましたが、新しい国立大学の本学では世の中の動きや国の施策に敏感で俊敏なことに驚きました。事務局や系の学生に対するサービスが当時からとても優

れているという印象も持ちました。大学の民営化を境に国の意向に翻弄されることもありますが、枠組みやルールに縛られることも少なく、自由に過ごすことができました。

校風とともに、私にとって幸せだったのは、名実ともに建築と土木が一体となった建築・都市システム学系で過ごしたことです。土木出身の私にとっては、建築出身の先生と一緒に過ごすことがとても新鮮で、デザイン性に富んだ名刺やプレゼン、自由に発想力豊かな研究スタイルを目にするたびに触発されてきました。ともに衣食住の「住」を担う建築と土木ですが、入学式と卒業式だけが一緒に、それ以外では一線を画するのが国内の標準です。業界花形のゼネコンでも建築部門と土木部門では採用や入社後のキャリアが別れています。本系では学生や教員は専門性に濃淡はありますが、同一のカリキュラムと時間割で運営するという実験的な離れ業を建学以来こなしています。社会との接続をうまく構築するのが本系の課題です。これまでに一度きりの多数決を行い、JABEEでは建築と土木の2つのプログラムを同時に申請して運営しています。建築士や測量士といった分野特有の資格に対応する教育体制を維持することも負担ですが、この特徴を逆手にとって教員や学生には伸び伸びと活動して欲しいと思います。また、想定されている南海トラフ地震では本系の実力が試されますので、鍛錬を欠かさずに備えを万全にして欲しいと思います。

最後になりますが、改めて皆様に感謝申し上げます。ご活躍をお祈りいたします。

研究室だより 建築・都市システム学系

構造力学研究室のご紹介と近況報告

博士前期課程2年 柴井 志月

本学卒業生ならびに修了生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2024年現在、構造力学研究室は博士前期課程3名、学部生8名の計11名が所属しています。本研究室は開学当初より続く歴史ある研究室であり、2019年には助教として瀧内雄二先生が着任なさいました。昨年の2023年には准教授にご昇進され、私は新たに発足した瀧内雄二研究室の一期生として配属になりました。名称としては中澤祥二研究室と瀧内雄二研究室の2つになりましたが、同じ構造力学研究室として、学生一同、先生方の熱心なご指導のもと、日々切磋琢磨し研究や勉学に励んでおります。

本研究室での研究内容は、ドームやスポーツアリーナのような大規模空間構造物の地震応答解析・座屈解析や、リユース材を用いた構造物の耐震性能評価を主としています。また、建築分野に情報技術を応用する「建設DX」関連のテーマとして、機械学習やAIを用いた構造物の自動解析・地震応答性状の予測、VRやAR技術を用いたドーム構造物の施工支援・教育ツールの開発にも取り組んでいます。

近況報告としましては、論文の執筆や对外発表に加え、今年の8月にはあなぶきアリーナ香川の建設現場を見学

させていただきました。その際、本学名誉教授の加藤史郎先生、構造力学研究室OBで呉工業高等専門学校准教授の仁保裕先生とご一緒させていただきました。施工性や美観性を考慮した設計上の工夫点や、構造解析におけるモデル化の方法や実務での設計フロー、注意点などについて勉強でき、大変有意義な時間となりました。普段見る解析モデルはコンピューター上で組み上げたものですが、実構造物として成立させるためには、数多くの工夫と苦労があることを改めて痛感しました。

ご多忙とは存じますが、お近くにお越しの際はぜひ研究室へお立ち寄りくださいませ。研究室一同、心よりお待ちしております。末筆ながら、皆さまのさらなるご活躍とご健康を祈念いたします。



同窓会事務局より

2023～2024年度 同窓会事業報告

1. 定例役員会の開催

2024年11月末までに計2回の定例役員会を開催しました。第1回役員会(2024年6月7日開催)では、2023年度の事業報告・収支決算報告、2024年度の事業計画・予算案、2024年度技科大祭に対する特別支援、等について話し合いました。第2回役員会(2024年7月3日開催)では、ABUロボコン世界大会に参加するロボコン同好会の経済支援について話し合いました。

第3回役員会は、2024年12月～2025年3月の間に開催予定です。

また、役員会議事録はホームページ上(<http://www.alumni.tut.jp/>)にて閲覧可能です。

2. 大学執行部との懇談会

2024年6月26日にオンライン会議にて、学長・執行部メンバーとの臨時懇談会を実施しました。大学からは若原学長代行、角田理事・副学長、中西理事・事務局長、滝川副学長・卒業生連携室室長、根本総務課長、黒柳卒業生連携室室員、同窓会からは、若林会長、戸高副会長、稲田副会長が参加しました。新型コロナウイルス感染症対策緊急募金の残額(2,668千円)の同窓会への返金手続き、同窓生への名簿システム登録メールアドレスの更新依頼、ABUロボコン大会出場に関する支援、学生食堂の充実対策、50周年記念事業への募金協力、等について意見交換・情報共有を行いました。

3. 定例総会の開催

2024年9月7日に、定例総会を現地(会場:eMCampus)とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。2023年度の事業報告・収支決算報告、ならびに2024年度の事業計画・予算案について審議を行いました。その中で、ロボコン同好会のABUロボコン世界大会出場に向けて70万円を特別支援することが承認されました。

総会終了後には、参加者有志にて豊橋駅前での対面での懇親会を行いました。

なお、総会の配布資料と議事録は、同窓会ホームページ(<http://www.alumni.tut.jp/topics/soukai.html>)にて閲覧可能です。

4. 会報の発行

同窓会報第42号(本号)を2025年3月に発行し、Web名簿システムを介して同窓生の皆様に会報発行のメール周知を行いました。併せて、大学HP等を通じて、学内外の方々にも周知を行っています。

これまでと同様に、会報は電子化して同窓会ホームページ(<https://alumni.tut.jp/annualreport/index.html>)にて公開し、随時閲覧可能になっています。

5. 季報「技科大の顔」の発行

2023年度から新規事業として、四半期毎に季報「技科大の顔」を発行することを決定しました。2023年9月に記念すべき第1号を発行して以降、2024年11月末現在で第5号までの発行を行っています。2024年度末までに第6号、第7号を発行する予定です。毎号、各系4名×5系で合計20名、30代から60代までの様々な同窓生の方々にご執筆を依頼し、ご自身の活動や近況報告、大学や後輩へのメッセージなど、自由に述べていただいています。

季報の発行時には、Web名簿システムを介して同窓生の皆様に季報発行のメール周知を行いました。併せて、メール周知等によって、学内関係者(在学生・教職員)にも発行の周知を行っています。

季報は、同窓会ホームページ(<https://alumni.tut.jp/newsletter/>)で公開し、随時閲覧可能となっています。

6. 同窓会ホームページの刷新および Web 名簿システムの運用

同窓会ホームページにおいて、役員の異動等、総会・役員会の資料掲載、季報、会報の電子データの公開等の更新作業を行いました。また、Web 名簿システムにて、新会員の登録・ID/Password 発行、既登録会員の情報追加修正、会員登録方法・本人確認などの問合せ対応、同窓会・大学からの一斉メール通知（大学広報誌「天伯」、研究広報誌 TUT Research の発行、大学主催イベント等の開催案内、等）を行いました。

名簿システムを共同で管理している本学卒業生連携室による卒業・修了生情報の収集・名簿システムへの登録作業完了後に、ID/PW の新規発行と、卒業・修了生への案内メールの送付を行いました。

以上の名簿システムの管理・運用に係る一連の作業は、事務補佐員が定期的に対応するようにしています。

7. 同窓会会長賞

2024 年 4 月に本学大学院博士前期課程に進学した学部 4 年次成績優秀者 20 名に同窓会会長賞を授与しました（学生の選出は各系に一任）。2024 年 3 月 23 日に開催された卒業記念パーティーにて、受賞学生に若林会長から賞状・副賞を授与しました。

8. 学生活動への援助

大学学生課との共同で、学生活動援助を 2024 年度は 24 団体に行いました。援助を行った課外活動団体の詳細は本文をご覧ください。

加えて、ロボコン同好会に対して、世界大会（ABU ロボコン）出場に向けた特別支援として 70 万円、技科大祭開催特別支援として 20 万円を助成しました。

9. 学生食堂における学生の食費支援の拡充

大学食堂の朝食について、「めざましごはんプレミアム」として、講義開講期の月曜日と金曜日の朝食経費の一部支援を実施しました。また、通年で水曜日の昼食時に提供する「同窓会カレー」の経費の一部支援を実施しました。

10. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。2024 年度に開催された懇親会 10 件（2024 年 11 月現在）に対して助成を行いました。助成した交流活動の開催報告（2023 年度中に開催で未報告だった交流活動も含む）は本文をご覧ください。

なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上（<https://alumni.tut.jp/activity/support.html>）に掲載されていますので、是非ご覧ください。

2023年度 同窓会収支報告・事業報告

2023年度 豊橋技術科学大学同窓会 決算報告

会計： 松本 幸大

監査： 中澤 祥二

予算

■ 収入の部	
入会金(440名×5,000)	2,200,000
会費(440名×10,000)	4,400,000
預金利息	500
2023年度収入計	6,600,500
2022年度からの繰越金	48,323,949
合 計	54,924,449

決算

■ 収入の部			
入会金(377+1(既卒者)名×5,000)	1,890,000		
会費(377+1(既卒者)名×10,000)	3,780,000		
預金利息	272		
		郵便普通	90
		銀行普通(三井住友)1	24
		銀行普通(三井住友)2	80
		銀行定期(三井住友)	78
2023年度収入計	5,670,272		
2022年度からの繰越金	48,323,949		
合 計	53,994,221		

予算

■ 支出の部

会報No.41経費	250,000
季報経費	584,500
役員経費	50,000
庶務経費	50,000
卒業記念パーティー援助金	250,000
学生課外活動援助金	
学生課外活動援助金(学生課を通した例年の支援)	500,000
ロボコン同好会世界大会(ABUロボコン)出場特別支援	1,000,000
同窓生懇親会開催援助	1,000,000
ホームカミングデー開催支援	300,000
各系・国内支部・海外同窓会・HCD・豊彰会等活動支援経費	500,000
同窓会Web名簿システム管理・運用費	604,560
同窓会長賞経費	420,000
「めざましごはんプレミアム」支援経費	1,100,000
「同窓会カレー」支援経費	1,200,000
予備費	500,000
2023年度支出計	8,309,060
2024年度への繰越金	46,615,389
合計	54,924,449

決算

■ 支出の部

会報No.41経費	282,100
季報経費	310,500
デザイン会社経費	95,500
執筆者謝金(1号:15名、2号:2名、大学寄附:計10名)(@5千円)	135,000
協力学生謝金(1号:5名、2号:3名(1名未払いのため24年度に))(@1万円)	80,000
役員経費	0
庶務経費	35,615
各種振込手数料	15,675
郵便局振替口座手数料	3,960
入会案内書類一式印刷費	12,980
会計監査作業謝金(中澤先生)	3,000
学友会・卒業記念パーティー支援	250,000
学生課外活動援助金(学生課を通した例年の支援)	500,000
ロボコン同好会世界大会進出のための補助	1,000,000
同窓生懇親会開催援助	606,000
建設工学系関西支部同窓会(援助)	70,000
ロボコン同好会30周年記念懇親会(援助)	36,000
南先生教授就任祝賀会兼同窓会(援助)	46,000
TUT物質2期生65歳同窓会(援助)	32,000
海岸工学研究室退職記念パーティー(援助)	88,000
2023年度豊橋技科大同窓会総会懇親会(援助)	28,000
中日本建設コンサルタント豊橋技科大同窓会(援助)	26,000
建設工学4期同窓会(援助)	44,000
トヨタ自動車 豊橋技科大OB/OG会(援助)	40,000
2023年度大門研究室OBOG会	36,000
工程制御研究室・システム制御研究室同窓会(援助)	56,000
豊橋日曜学校50周年大親睦会(援助)	58,000
豊橋・長岡合同交流会退職者を囲む会(援助)	20,000
梅村恭司教授退職記念講演会懇親会(援助)	26,000
ホームカミングデー開催支援	157,140
ホームカミングデー懇親会景品代	19,800
ホームカミングデーオードブル・飲み物代	137,340
各系・国内支部・海外同窓会・HCD・豊彰会等活動支援経費	0
同窓会Web名簿システム経費	535,460
同窓会長賞経費	415,620
賞状及び筒費	15,620
副賞費(¥20,000×20名)	400,000
「めざましごはんプレミアム」支援経費 2023.6~2024.2	1,000,000
「同窓会カレー」支援経費 2023.4~2023.2	860,200
同窓会ホームページ修正	92,664
10周年毎の備蓄用積立金	0
2023年度支出計	6,045,299
2024年度への繰越金(A)	47,948,922
合計	53,994,221

※2018年2月より役員手当は1,000円/時間とし、学外から来られる同窓会役員には交通費を支払うこととした。

※2021年度より、繰越金が出た場合、100万円を上限として、10周年毎の記念行事への積立金とする。

三井住友(普通)①	2024年4月1日	130,015
三井住友(普通)②	2024年4月1日	7,944,701
	→3、10周年備蓄用積立金2年分(実際には使用していないため、マイナス計上)	-2,000,000
三井住友(定期)	2024年4月1日	4,575,590
郵便局振替	2024年5月1日	26,400,709
郵便	2024年4月1日	10,699,575
現金	2024年4月1日	198,332
合計(B)		47,948,922
(A)-(B)		0

2024年度 豊橋技術科学大学同窓会 予算

■ 収入

項 目	金 額 (円)	
入会金(5,000円×440人)	¥2,200,000	
会費(10,000円×440人)	¥4,400,000	
預金利息	¥500	
新型コロナウイルス感染症対策緊急募金の残額返金	¥2,668,050	
2024年度収入計	¥9,268,550	
2023年度からの繰越金	¥47,948,922	
合 計	¥57,217,472	

■ 支出

項 目	金 額 (円)	
同窓会報No.42経費	¥300,000	
季報経費	¥1,000,000	
デザイン会社経費		¥250,000
執筆者謝金(5千円×4名×5系×5回)		¥500,000
協力学生謝金(2,500円×4名×5系×5回)		¥250,000
役員経費	¥50,000	
庶務経費	¥50,000	
卒業記念パーティー援助金	¥250,000	
学生課外活動援助金	¥1,400,000	
学生課外活動援助金(学生課を通じた例年の支援)		¥500,000
技科大祭特別支援		¥200,000
ロボコン同好会世界大会(ABUロボコン)出場特別支援		¥700,000
同窓生懇親会開催援助	¥1,000,000	
各系・国内支部・海外同窓会・豊彩会等活動支援経費	¥500,000	
システム管理・事務経費	¥628,680	
システム管理・運用費		¥328,680
事務補佐員業務補助費		¥300,000
同窓会会長賞経費(賞状+副賞)	¥420,000	
「めざましごはんプレミアム」支援経費	¥1,300,000	
「同窓会カレー」支援経費	¥1,000,000	
困窮学生に対する支援金	¥0	
予備費	¥500,000	
2024年度支出計	¥8,398,680	
2025年度への繰越金	¥48,818,792	
合 計	¥57,217,472	

2023年度 豊橋技術科学大学 同窓会会長賞

開学 40 周年記念同窓会事業の一つとして、研究者・技術者としての更なる飛躍が期待される学生を支援することを目的として、2016 年度に同窓会会長賞を新設しました。2023 年度について、2024 年 4 月に本学大学院博士前期課程に進学する学部 4 年次成績優秀者 20 名を表彰しました（表彰学生の選出は各系に一任）。

所属課程	表彰学生※
機械工学課程	森本 蒼士、高橋 駿希、DANG BA LOC、石黒 仁大 中嶋 晃祐、長谷川 篤哉
電気・電子情報工学課程	高橋 尚大、板垣 拓杜、金築 佳郎、岡田 篤哉
情報・知能工学課程	玉田 周太郎、白谷 歩夢、福田 裕也、久高 萌永
環境・生命工学課程	中田 龍、久恒 ゆい、米本 壮汰
建築・都市システム学課程	高橋 淳平、菊川 翔登、須本 英暉

※各課程の学生数を考慮して表彰学生数を決めているため、課程間で受賞人数差があります。

新型コロナウイルス感染防止のため 2019 年度以来中止となっていた卒業記念パーティーが 2024 年 3 月 22 日に 3 年ぶりに開催され、冒頭に同窓会会長賞授与式を実施することができ、若林会長から各学生に賞状・副賞を授与しました。本制度は、今後も継続して実施します。



学生への賞状の授与



若林会長と受賞学生との記念撮影

学生活動への援助報告

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っており、2024年度は公益財団法人スポーツ安全協会「スポーツ活動等普及奨励助成事業」にも採択されました。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。



バドミントン部

機械工学課程 4年 河合 剛毅

顧問教員：情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之

部員数：学部生 26名、大学院 20名

豊橋技術科学大学バドミントン部は、週に2回の活動を行っており、バドミントンを愛する学生が集まるアットホームな環境で活動しています。部員たちはそれぞれのスキルに合わせて練習に励み、楽しみながら技術を高めています。活動は体育館を利用して行われ、初心者から経験者、留学生まで幅広いレベルのプレイヤーが参加しています。

バドミントン部の目標の一つは、豊橋バドミントンリーグでの成績向上です。現在、男子チームは豊橋バドミントンリーグの男子3部に所属しており、直近の大会では4位の成績を収めました。この成績をさらに上げることを目標としており、次のステップである2部昇格を目指して日々の練習に励んでいます。リーグ戦だけでなく、他の大会にも積極的に参加しており、東国体では7位入賞という実績も残しています。これらの成果は、部員たちが努力を重ね、チーム全体で成長を遂げている証拠です。

豊橋技術科学大学バドミントン部は、個人のスキルアップだけでなく、チームワークやスポーツマンシップも大切にしており、部員同士のサポートを通じて互いに切磋琢磨しています。経験を問わず、バドミントンを楽しみたい、技術を向上させたいという学生は歓迎されており、部活動を通じて新しい仲間と出会い、楽しい大学生活を過ごすことができます。バドミントン部では一緒に目標を達成し、充実した学生生活を送りたい仲間を常に募集しています。



バスケットボール部

建築・都市システム学専攻 1年 飯島 義

顧問教員：建築・都市システム学系 教授 杉木 直

部員数：学部 20名、大学院 11名

この度は課外活動活性化経費としまして、バスケットボール部をご支援いただき誠にありがとうございます。私たちバスケットボール部はバスケットボールを通じて学生間や他大学との親睦を深めるとともに、各大会において優秀な成績を収めることを目標に日々の活動を行っています。

活動日程としましては、月曜日、水曜日、金曜日としています。練習内容としましては、実践形式の練習を行っております。大会が近くなると、セットプレーの確認など試合を意識した練習も増やし、大会に向けてチーム全体で意識を高めています。バスケットボール部は東海地区国立体育大会や東三河バスケットボール協会が主催している東三河社会人会長杯バスケットボール大会やラ・ヴィ杯バスケットボール大会に参加しています。

今回いただいた課外活動活性化経費はユニフォームの購入に充てさせていただきました。長年使用していたユニフォームの劣化が激しいほかに、当時の流行であったオーバーサイズのユニフォームであるために選手のパフォーマンスに悪影響を及ぼしていました。しかし、今回の課外活動活性化経費の支援のおかげでパフォーマンス向上につながりました。

今回のご支援そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



軟式野球部

博士前期課程建築・都市システム学専攻 1年 稲垣 迪和
顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明
部員数：学部 21名、大学院 14名

この度は課外活動活性化経費としまして、軟式野球部をご支援いただき誠にありがとうございます。私たち軟式野球部は野球を通じて学生間や他のチームとの親睦を深めるとともに、楽しみながらも各大会で優秀な成績を収めることを目標に日々の活動を行っています。

活動日は、木曜日、金曜日としています。練習内容としましては、基礎的な練習から、試合に近いような練習を行なっております。勝ち進むと毎週のように試合が続く期間が長いですが、試合がない週は練習試合を組むことで、毎週試合をすることを心がけています。今年度は、東海地区国立大学体育大会準硬式野球の幹事校として、運営・参加し、その他の大会は、豊橋野球協会が主催する大会に参加しています。実施したのも含めて、4つの大会に参加予定です。

今回いただいた課外活動活性化経費はボール、ボールケース、バット、バットスタンド、ライン引きの購入に充てさせていただきました。部員数の増加により、バットやボールなどの必要物品が不足していた状況で、使用していた道具は、ここ数年間新たに購入できておらず、経年劣化が進んでいました。今回の課外活動活性化経費の支援のおかげで、充実した練習、試合を行うことができるようになりました。

ご支援していただいたこと、多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



吹奏楽団

建築・都市システム学課程 4年 湯浅 悠太郎
顧問教員：総合教育院 教授 岡田 浩
部員数：学部 31名、大学院 18名

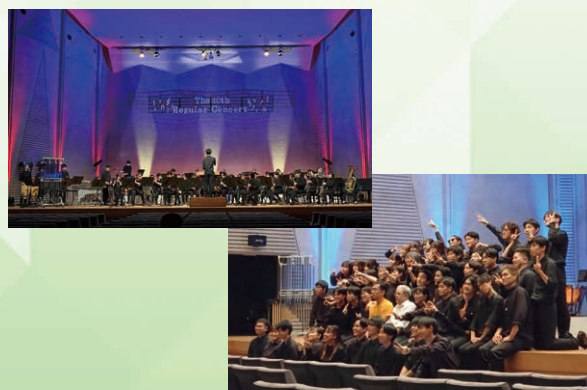
私たち吹奏楽団は、現在49名の団員で活動しています。団員は初心者から経験者まで幅広く、全員で一丸となり、音楽を通して仲間との絆を深めています。私たちは、地域に根差す団を目標に掲げており、そのため、地域の皆さまと音楽で交流を図ることを大切にしています。

今年度も多くのイベントに参加しました。6月には愛知大学吹奏楽団との合同演奏会を実施し、他校の学生と共に一つの音楽を作り上げました。7月には、駅前で「たなばたコンサート」を開催し、地元の方々に親しまれるイベントとなりました。また、4月や6月には企業や小学校からの依頼を受け、依頼演奏を行いました。これらの依頼演奏では、子どもたちや地域の皆さまに喜んでいただき、地域との繋がりをさらに強める良い機会となりました。

10月には、第40回定期演奏会を開催しました。今回の定期演奏会では、第40回を記念としてOBOGを招き、約70名の大人数による合同演奏を行いました。大きな迫力と感動をお届けすることができ、大成功を収めました。

今後の活動としては、11月に予定されている企業や地域イベントでの依頼演奏、1月末に行われる団内アンサンブルコンテスト、そして3月の卒業式での演奏を控えています。これらの行事を通して、さらに団員の技術向上を目指すとともに、地域との繋がりを大切にしていきたいと考えています。

今後も、音楽を通じて地域社会に貢献し、さらなる成長を目指して活動を続けていきます。応援よろしくお願いいたします。



硬式テニス部

機械工学課程 3年 林 未輝矢

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 滝川 浩史

部員数：学部 48名、大学院 7名

この度は、我々硬式テニス部に対してご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心より感謝申し上げます。

硬式テニス部は毎週月曜日と水曜日に活動しており、初心者から経験者まで楽しんで日々練習に励んでいます。基本的には球出し練習やサーブ練習等の基礎的な練習を中心に行った後、シングルスやダブルスを実践し、部員全員が実力の向上につながるよう活動しております。

今年度は東海学生テニス連盟主催のリーグ戦に参加いたしました。このリーグ戦で勝利を重ね、見事に過去数年間達成することができなかった5部リーグから4部リーグへの昇格を達成することができました。対外試合をすることで日々の練習に対する目標を定めることができるので来年度も積極的に参加しようと考えております。

今回のご支援により、弊部はテニスボールとラケットガットを購入させていただきました。テニスボールを購入したことにより、常に良い状態のボールで練習することができ、質の高い練習を行うことが可能となりました。部活動中、初心者用ラケットがよく切れてしまうために部員が自らガットを購入し張っていましたが、ガットを購入したことにより、部員の金銭的負担を削減することができました。

今部活動を行うことが出来ているのは皆様のご支援あってのことと考えています。重ね重ねお礼申し上げます。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



軽音楽部 D7sus4

機械工学課程 3年 佐藤 匠真

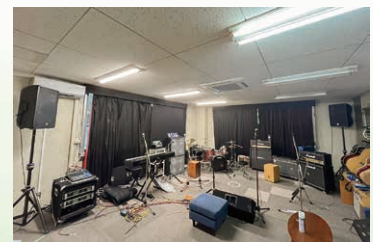
顧問教員：総合教育院 准教授 稗田 睦子

部員数：学部 93名、大学院 26名

軽音楽部 D7sus4 は、部員たちが各自の担当楽器を持ち寄り、ギター、ベース、ドラム、キーボード、ボーカルなどで構成されるバンドを編成します。バンド活動を通じて、メンバー間のコミュニケーションや協力の大切さを学びながら、技術力の向上を目指します。

この度、課外活動活性化経費で購入させていただいたミキシングコンソロールとPAスピーカーは、写真のように日々の練習において部室で使用しています。新しいミキシングコンソロールとPAスピーカーを購入したことで音の響きがよくなり、部員たちのモチベーションアップすることができました。また、軽音楽部では、最大のイベントである、学園祭や commons で行われる定期的なイベントライブがあり、これが部員たちにとっての大きな目標となります。ライブでは、日々の部室での練習の成果を披露し、部員同士で楽しむことに全力を尽くします。この経験は、部員たちにとって貴重な舞台経験となり、緊張感の中で演奏する力や、チームとしての一体感を深めることができます。

このように、軽音楽部は音楽を楽しみながら、自身の成長や仲間との絆を深められる充実した活動を提供しています。これからも軽音楽部の活動をより盛り上げていくよう精進します。今後ともよろしく願います。



豊橋建築サークル TYACC

都市システム学専攻・修士課程 1年 仙田 璃温
顧問教員：建築・都市システム学系 准教授 水谷 晃啓
部員数：学部 40名、大学院 10名

今年度は「apt under the tree」「デザインコンペプロジェクト」「ストリートファニチャー」「豊橋リノベーションまちづくり」の4つのプロジェクトを軸に活動しています。

「apt under the tree」は地域住民の方から空き倉庫をお借りし改装と活用を行うプロジェクトで、前年度までの活動による残渣の掃除・片付けと今年度の改修計画の立案・実施を行うとともにイベントの企画・運営を進めています。

「デザインコンペプロジェクト」では日新工業建築設計競技、ハーフエレ学生デザインコンペティション、蒲郡市学生チャレンジコンペなどの外部デザインコンペティションに取り組むと同時に、先輩から公平への図面や模型制作の技術習得・指導も行っています。

「ストリートファニチャー」では大学内に設置されたCNCルーターなどのデジタル・ファブリケーション機器を用いてベンチ等の設計・製作を行い、外部の家具コンペティション

などにも作品の応募を行っています。

「豊橋リノベーションまちづくり」は豊橋市まちなか活性課が主催するリノベーションを通して空き家活用を行うプロジェクトで、学生メンバーとしていくつかのグループに分かれて参加し、事業提案も含めた空き家の活用方法の企画・発表に携わりました。

今回はご支援いただいた課外活動活性化経費援助を基に、模型材料を購入させていただきました。有効活用はもちろんのこと、技科大生全体のイメージアップに繋がられるよう邁進する所存です。この度は誠にありがとうございました。



硬式野球部

建築・都市システム学課程 3年 鈴木 陸生
顧問教員：機械工学系 准教授 竹市 嘉紀
部員数：学部 21名、大学院 0名

今年度、硬式野球部の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。私たちは現在4年生9人、3年生9人、1年生3人の計21名の部員で活動を行っています。私たちは春季、秋季リーグ戦で良い結果を残せるよう、週2回練習に励んでいます。

私たち硬式野球部は愛知大学野球連盟に所属しており、春季、秋季の年2回のリーグ戦があり、現在は3部リーグに所属しています。今年度のリーグ戦では8チームが参加し、総当たり戦によって順位を決めます。春季リーグ戦は0勝7敗で8位、秋季リーグ戦では1勝6敗で7位タイという成績でした。春季リーグ戦では試合に勝つことができませんでした。秋季リーグ戦では1勝することができました。来年度は春季、秋季両方のリーグ戦で勝利をあげられるよう、日々活動していきます。また、もう1つの大会である東海地区国立体育大会に参加し、初戦敗退という結果に終わりました。

今回ご支援いただいた物品はユニホームシャツ昇華プリント付き胸番号背番号18着となっており、今年度の秋季リーグ戦から使用させていただいております。大会に参加するにつれ、ユニホームが痛んでいたため購入させていただきました。ユニホームを購入していただいたことにより、チームの士気が向上したように感じます。

ご支援いただいた皆様への感謝を忘れずに、日々の活動を充実させ、よりよい結果を出せるよう、硬式野球部一丸となり全力を尽くして取り組んでまいります。



Jazz研究会

情報・知能工学課程 3年 長浜 遼河
顧問教員: 情報・知能工学系 教授 三浦 純
部員数: 学部 65名、大学院 13名

この度は我々 Jazz 研究会にご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心より御礼申し上げます。

本サークルはジャズをはじめとした様々な音楽を通じて演奏や鑑賞を楽しむサークルです。今年度は新入生歓迎会や技科大祭、部内ライブなどを実施しました。他にもまちなか音楽広場での演奏や、愛知大学(豊橋キャンパス)モダンジャズ研究会様を交えた学外でのセッション会の開催、理論講習会の実施など、とても充実した活動ができています。また、学外にて演奏する機会が増えたことにより部員の向上心も増してきており、日々切磋琢磨してジャズの知識や楽器演奏の技術を習得しています。今年度は新入生が非常に多く入部したこともあり、先輩による楽器の演奏指導や、楽譜の読み方等の指導、また演奏曲の幅を広げるための Jazz を聞く会の開催など、初心者に寄り添った活動も精力的に行っております。

我々はこの度いただいたご支援により、クラリネットを購入させていただきました。クラリネットの柔らかく伸びやかな音色はジャズには必要不可欠です。今年度はクラリネット奏者が加入し、新たな楽器によって音色の種類も増え、より華やかで魅力的な演奏が増えました。

今後はセッション会を定期的を開催することで、ジャズやその他の音楽により深く触れられる環境を作っていく所存でございます。また、ジャズについての知識を深めるとともに、様々な音楽の魅力をたくさんの人と共有できるよう努力してまいります。この度はありがとうございました。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



ボランティア部

機械工学専攻 1年 酒井 達也
顧問教員: 情報・知能工学系 教授 松井 淑恵
部員数: 学部 69名、大学院 8名

豊橋技術科学大学ボランティア部で、23年度に引き続き、24年度も代表を務めさせていただいています。酒井達也と申します。この度は、弊部へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ボランティア部では、献血推進活動と海岸清掃活動の2つを活動の柱としています。献血推進活動では、赤十字社や他大学の皆様と協力し、献血会場での呼びかけや誘導を行っています。献血にご協力いただける皆様への感謝の気持ちを込め、円滑な献血の実施をサポートしています。また、昨年度から始まった海岸清掃活動には「BEACH CLEAN」と名付け、主に豊橋市南部の海岸でゴミ拾い活動を実施しています。24年度には、計3回の「BEACH CLEAN」を実施し、部員を中心に80名以上の方々にご参加いただきました。

今回のご支援により、弊部では側溝掃除用の用具を購入させていただきました。この背景には、令和5年6月2日に豊橋市で発生した大雨災害があります。当時、豊橋市の24時間降水量は418mmに達し、観測史上最大の降水量を記録しました。その結果、河川の氾濫や側溝から水が溢れ出すといった被害が多発しました。これを受けて、弊部では献血推進活動、海岸清掃活動に続く第3の活動の柱として、側溝掃除活動を企画しています。今後は、皆様にご支援いただいた用具を活用し、豊橋市内の側溝掃除に微力ながら取り組んでまいります。そして、大雨災害の被害を少しでも軽減できるよう、部員全員が一丸となって側溝掃除に尽力していく所存です。

現在、私たちが活動を続けられているのは、皆様のご支援のおかげであると深く感謝しております。改めて御礼申し上げます。今回ご支援いただいた物品を有効に活用することはもちろん、今後も充実した課外活動を実現できるよう、さらに尽力してまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



アニメーション&コミック研究会

情報・知能工学課程 3年 本多 幹也

顧問教員:情報・知能工学系 准教授 佐藤 幸紀

部員数:学部 38名、大学院 5名

この度はアニメーション&コミック研究会の活動にご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

我々アニメーション&コミック研究会はアニメーションやコミックなどから様々な技法やインスピレーションを共有できるような企画を主にしており、部員が自ら作品の制作意欲を引き出せるような和気あいあいと活動を行っています。毎週木曜日の活動では「勉強会」といって、作品制作における技術の共有や時には参考になる作品の紹介を行うことで、自分の作品へ活かせるような活動を行っています。また、部員が制作した作品の一つにまとめイラスト集として製本したものを同人誌の即売会や技科大祭で販売しています。今年も名古屋 COMITIA、技科大祭に出展し、イラスト集を販売しました。多くの方に立ち寄っていただき、部員の作品がたくさんの方の手に取ってもらえたことを非常にうれしく思います。

今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は名古屋 COMITIA に参加するための交通費に充てさせていただきました。おかげさまで例年よりも多くの部員が参加し、他の出展者さんの作品から多大なインスピレーションを受けることができました。ここで得られた学びをこれからの作品制作に生かしていけるようにより一層活動に力を入れていこうと思います。

改めてご支援いただいた多くの方々のご期待に応えられるとともに当部活動がよりよいものになるよう精進していきたいと思っております。今後ともご支援の程よろしくお願いたします。



技科大祭実行委員会

機械工学課程 4年 松本 有平

顧問教員:機械工学系 教授 柴田 隆行

部員数:学部 63名、大学院 0名

この度は、技科大祭実行委員会にご支援いただきありがとうございました。いただいた経費はロータリー看板を設置するための足場や模擬店のためのコードリール、その他消耗品に充てさせていただきました。

技科大祭実行委員会は学部生のみで構成された団体で、毎年学生課と協力して技科大祭の運営を行っています。

今年度の技科大祭はコロナによる縮小開催が解除されて2年目でノウハウの少ない状態からのスタートでした。また、昨年度が雨で来場者が少なめであったこともあり、もっと多くの人に技科大祭に来てもらいたいという思いを込めてテーマとして「COME」を掲げ活動してきました。

より多くの人に来てもらうために今年度は多くのことに挑戦しました。技科大祭としての認知度を上げるために地域の小中学校にチラシを配布したり、豊橋市内の店舗にチラシを掲載させていただいたり、実際にチラシ配りをしたりなどして告知に力を入れて活動しました。また技科大祭自体の魅力を上げるために、キッチンカーを誘致したり、会場内の装飾を増やしたりもしました。

結果として今年度の技科大祭は昨年度を大きく超える来場者数を記録し、目玉のステージである抽選会は大きな盛り上がりを見せ、大盛況で幕を閉じました。

このように新しいことに挑戦して活動を行うことができるのも皆様のご支援のおかげです。今後ともより良い学祭を開催するためにご支援ご協力のほどよろしくお願申し上げます。



音楽技術部

情報・知能工学課程 3年 可知 拓実
顧問教員：機械工学系 教授 戸高 義一
部員数：学部 54名、大学院 19名

この度は、音楽技術部へのご支援を賜り、心より感謝申し上げます。部員一同、皆さまからのご支援に深く感謝し、そのおかげで私たちの活動をより一層充実させることができました。

音楽技術部は、音楽と技術を融合させ、その魅力をより多くの人々に伝えることを目的に活動しているサークルです。私たちは定期的に音楽イベントを開催し、その中心にはDJパフォーマンスがありますがそれにとどまらず、楽曲制作や音響機材の研究、照明や映像を使ったパフォーマンスなど、部員それぞれが多様なスキルを活かしてイベントを盛り上げています。こうした取り組みによって、私たちのイベントはより多彩で魅力的なものとなり、参加者の皆様からも高い評価をいただいております。

今回ご支援いただいた経費を活用し、新たに小型のスピーカーを購入することができました。このスピーカーの導入により、私たちのイベントでの音質が向上し、音楽体験がより深く、充実したものとなりました。また、小型のスピーカーを使用することで大型のスピーカーを設置するスペースが必要なくなり、これまで以上に小規模のイベントを気軽に開催できるようになりました。これにより、私たちのイベント開催頻度も増え、部員たちがさまざまな機会でもパフォーマンスを披露できる場が広がりました。

結果として、部員の増加にも繋がり、サークル全体の活動がより活発になったと感じております。これからも、音楽技術部一同は、より良い音楽イベントを目指し、音楽と技術の可能性を追求しながら、音楽の魅力を広く伝えていけるよう邁進してまいります。

今後とも応援とご支援のほどよろしくお願いいたします。



おちゃのかい

電気・電子情報工学課程 4年 坂本 智之
顧問教員：機械工学系 教授 中村 祐二
部員数：学部 31名、大学院 15名

私たちおちゃのかいは、日本の伝統文化である茶道を通して、礼儀作法や精神性を育むことを目的としたサークルです。週に2回、経験豊富な先生をお招きし、作法の基礎から奥深い知識まで丁寧な指導していただいています。日々の活動では、お茶とお菓子を楽しみながら、季節の移ろいを感じ、心を落ち着かせるひとときを過ごしています。

サークル内で大きいイベントは主に5つあります、サークル紹介、ふつうの茶会、技科大祭、卒業茶会です。サークル紹介では技科大内のすべてのサークルが紹介の為に展示スペースを設けており、そこにお菓子とお茶をだして茶道というものを見て感じてもらうというイベントです。ふつうの茶会はサークル内最大のイベントで、外部のお客様をお呼びして今まで学んできた茶道について成果を披露する場所です。主に修士、学部4年の方が今までの成果を外部に向けて発表する場です。技科大祭は学内の文化祭であり、ここではふつうの茶会よりカジュアルなイベントで全くの新規のお客様も多く見えます。そのため、4月に入学してきた新入生たちが主体となって茶道のお点前について披露を行います。卒業茶会では、いままでお世話になってきた先輩方に御礼を差し上げる場所として在校生たちで外部のスペースをお借りして礼節を尽くす場所でございます。お茶会に参加する機会としても珍しい場所であるのでお別れと新しい旅路を祝う場所として毎年気合を入れて行っております。



総合文化部

建築・都市システム学課程 3年 向井 太洋
顧問教員：機械工学系 教授 戸高 義一
部員数：学部 99名、大学院 21名

この度は課外活動活性化経費を通して総合文化部をご支援いただきありがとうございます。私たちが総合文化部は、現在 120 名の部員で活動しています。総合文化部には現在レゴ部門と喫茶部門があり、共同で運営を行っています。

レゴ部門では、主に子供向けのレゴを用いた教室活動、作品展示、企業や個人向けの作品制作を行っています。今年は何のづくり博 in 東三河 2024 や青年のための科学の祭典 2023 などに出展いたしました。今後も「多くの人に楽しんでもらえる動く作品づくり」を目標に活動して行きたいと思えます。

喫茶部門は昨年設立された部門で毎週様々な茶葉や豆を使って「コーヒーや紅茶をより気軽に、おいしく楽しむ」をテーマに紅茶とコーヒーを部員同士で淹れ合いながら、淹れ方や豆・茶葉の特徴を飲み比べをして知識を深め合う活動をしています。今後は各部員の知識や技術を磨き、地域のイベントなどに積極的に参加してコーヒー・紅茶の楽しさを様々な人に広める活動を進めていくほか、市内のロースターに協力していただき、部員による焙煎や勉強会などを実施していきたいと考えています。

今後も各部門の活動を通じて地域社会の活性化などに貢献してまいります。応援よろしく願いいたします。



ロボコン同好会

機械工学課程 3年 杉元 優介
顧問教員：機械工学系 准教授 佐野 滋則
部員数：59名

豊橋技術科学大学 ロボコン同好会 2025 年世代代表の杉元優介と申します。この度は、我々ロボコン同好会にご支援を賜り、誠にありがとうございました。今年度頂いたご支援は、オートリールとドラムリールの購入に充てさせていただきました。大人数が一つの作業場所で活動するため、配線周りが乱雑であることによるけがの危険性が、以前より懸念されておりましたが、リールを活用することにより、安全で活動しやすい環境を整備することができました。

ロボコン同好会は、「技術を極め、世界へ挑む」を掲げ、国内大会である「NHK 学生ロボコン」で優勝し、世界大会である「ABU ロボコン」で世界一になることを目標に日々活動しています。ロボコン同好会は、昨年の「NHK 学生ロボコン 2024」で前例のない 3 連覇を達成し、日本代表として出場した「ABU ロボコン 2024」ではベスト 4 に進出すると共に、「BEST ENGINEERING AWARD」(技術賞)も受賞しました。

現在、来年 6 月に開催される「NHK 学生ロボコン 2025」に向けてロボットを鋭意製作中です。今シーズンの競技課題はバスケットボールがテーマとなっています。例年にはないロボット同士のぶつかり合いや、相手ロボット 2 台と自チームのロボット 2 台が入り混じる複雑で高度な試合展開が予想されます。

「必勝とよはし☆ロボコンズ」のスローガンのもと、国内大会 4 連覇、そして世界王座奪還を目指します。今後ともロボコン同好会の活動への応援とご支援をよろしく願いいたします。



国際交流クラブ

機械工学課程 4年 永富 生一朗

顧問教員：学生支援統括センター 教授 大門 裕之

部員数：学部 40名、大学院 40名

私たち国際交流クラブ「CALL」は、異文化交流に興味のある学生に交流の場を提供し、主に大学内の国際交流を推進することを目的としています。特に、留学生の所属が多く、活動で英語を多く使っていることもあり、非常に国際色豊かです。英語学習をしている方や、異文化を持つ仲間を見つきたい方にとって、理想的な環境だと自負しております。

私たちの主な活動は以下の3つです。1つ目は、毎週火曜日に実施している「J-talk」です。このイベントは、地元の食事や趣味、夏休みの思い出など、毎回異なるトークテーマに沿って会話を楽しむイベントです。英語のレベルに関係なく、みんなで楽しく話せるような場にすることを意識しています。

2つ目は、月に一度開催している「International Event」です。七夕やおにぎりパーティー、クリスマスパーティーなど、文化に関連したテーマでイベントを企画し、異文化交流を深めています。

3つ目は、豊橋市国際交流協会と共同で主催している「Global Lounge」です。Global Loungeは、豊橋市民向けの国際交流イベントで、豊橋市に在住している日本人だけでなく、外国人の方も多く参加しています。Global Loungeを通して、地域とのつながりも大切にし、大学外でも交流の機会を提供しています。

国際交流クラブは、国籍や言語の壁を越えて、多くの人々が集う場所です。参加学生は新しい視点や文化に触れ、自分自身の世界を広げる良い機会になっていると思います。これからも豊橋市の国際交流を推進するために、引き続き活動に励んでまいりますので、変わらぬご支援いただけますと幸いです。



自動車研究部

電気・電子情報工学課程 4年 刀谷 吉徳

顧問教員：機械工学系 准教授 安井 利明

部員数：学部 27名、大学院 3名

豊橋技術科学大学 自動車研究部で2025シーズンの部長をつとめさせていただき刀谷吉徳と申します。この度は弊部にご支援をいただき誠にありがとうございました。

自動車研究部は毎年9月に開催される「学生フォーミュラ日本大会」に出場しております。学生フォーミュラとは、学生が自ら車輛を構想・設計・製作することで、ものづくりの総合力を競う大会です。我々は「技術に触れて感じる。」を基本理念に掲げ、講義で学んだ知識・実習で得た技術・困難を解決する知恵、これらを活かし、活動を行っています。

2024年大会では、大会会場がエコパスタジアムから中部国際空港のAichi Sky Expoに変更され、地元校としての参戦となりました。

大会では、車輛製作が間に合わず走行は叶いませんでしたが、この悔しさをバネに2025年大会では、完走を目指して頑張っております。また、車輛製作の遅延が問題でしたが、25年大会では今シーズン作製した車輛を使用することができるため、早期に走れる車輛を準備し調整を行えるように頑張っております。

今年度の支援金では、車輛のタイヤを購入させていただきました。通常のタイヤではなく、レース用の専用スリックタイヤになるため高価ですが、ご支援で購入することができました。25年大会では大会前での走行機会が例年より増えるためタイヤの消耗が厳しくなることが予想されますが、ご支援いただいたタイヤを有効活用してまいります。

今後とも応援のほど、よろしくお願いたします。



フットサル部

応用化学・生命工学課程 4年 山谷 聡

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 河野 剛士

部員数：学部 24名、大学院 5名

部員は、学部生が24人で、大学院生が5人です。活動内容としては、週に火曜日と木曜日の20時から22時まで、主に5 vs 5の試合形式で活動しています。留学生も多く参加しており、国際交流が活発に行われています。

大会には、2年前までは参加していましたが、主催者が亡くなられたために、大会自体が無くなり、去年から今年まで主な大会に参加できていません。また、フットサル部は、「人種、年齢、経験に関係なく、皆が楽しく、フットサルをする」をスローガンとして活動しているため、本格的な大会に参加を望む選手がごく少数であり、大会に参加する人数が足りないことも大きく関係しています。

参加しているイベントなどはありませんが、定期的に、サッカー部との交流会という形で、フットサル部の練習に招いて共に試合を行い、コミュニケーション能力や技術を高めています。また、その逆にサッカー部の練習に参加させていただき、フットサルだけでなくサッカーの楽しさを留学生や未経験者に体験していただいています。



サッカー部

建築・都市システム学課程 4年 中村 瞬

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 河野 剛士

部員数：学部 20名、大学院 2名

私たち豊橋技科大サッカー部は、6月頃に開催される東海地方国立大学体育大会での躍進を目指して日々活動しています。直近はコロナの影響などもあり、部員数が少ないため辞退している大会もありましたが、今年度は参加することができました。写真は第一試合の静岡大学との試合前集合写真です。結果は、残念ながら0-3で一回戦敗退となりました。

今年度は学部生のみで出場したこともあり、日々の練習から試合まで人数不足に悩まされ、かつ、数年活動がまばらであったため、ボールなどの用具の状態も非常に悪かったです。ただ、今回の活動活性化経費により、新品のボールを約10球、ビブスやコーンなどの練習器具も購入させていただけることになりました。この充実した道具に感謝し、来年度は2回戦進出だけでなく、優勝を目標に活動を続けていく所存です。

リーグ戦に関しては、現状部員数が少ないため登録に至っていません。ただ、来年度は今年度のメンバーに加えた新入部員とともに、積極的に対外練習試合に参加し、ゆくゆくはリーグ戦に参加する予定です。今年度の残りは大会などありませんが、来月に社会人チームとの合同練習があります。少しずつ積み重ねていき、来年度以降の大会につなげていけるよう全員で一致団結して、サッカーを楽しみます！応援していただけますと幸いです。



空手道部

電気・電子情報工学課程 4年 母良田 友
顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 滝川 浩史
部員数：学部 8名、大学院 2名

この度は、私たち空手道部にご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

私たち空手道部は、毎週日曜日に活動しており、外部講師である日本空手協会三河支部代表者の平野茂広先生を招いて指導を受けております。

今年度は新たに学部生が二人加わり、部が一層活気づいたものとなりました。今までは学部生の男子が少なかったのですが、久しぶりの入部となり部全体を活気づけてくれています。

ここ数年はコロナウイルスの流行の影響により大会への出場は見送らせていただきましたが、来年度からは大会に出場する予定で、来年度以降の大会に向かって日々練習を行っています。今年度は大会の出場を見送ったため、その分形や技の稽古に注力することができ、初心者部員も経験者部員もそれぞれのレベルにあった実力を高めることができました。

また、外部講師の紹介で社会人の経験者を招き、学生間だけでは気が緩みやすく上げにくい練習の質などを格段に向上させることができました。

これらの経験を活かし、来年度以降の各大会などでの入賞や段位所得などをしていけるよう努めてまいります。また、空手の技術だけでなく、空手道という武道を通して日本武道の精神や礼儀作法なども学び、それらを初心者の方や海外からの留学生などにも伝えられるようにより一層精進してまいりたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



TUTものづくりサークル

機械工学課程 3年 四家 綾真
顧問教員：機械工学系 准教授 佐野 滋則
部員数：学部 11名、大学院 25名

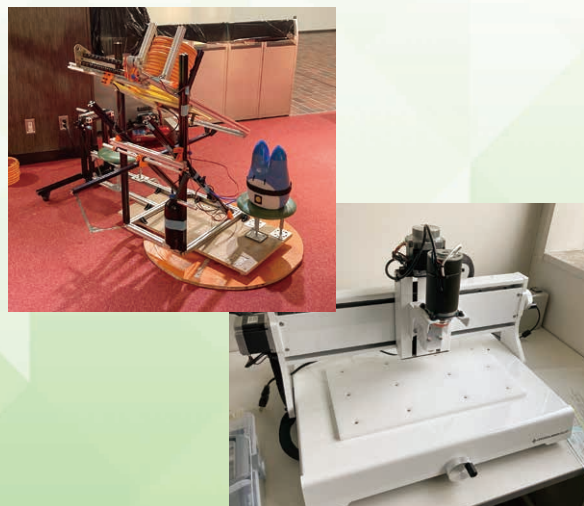
技科大祭では、私たちのチームが作成した輪投げロボットが子供たちに大人気でした。ロボットは、子供たちが楽しみながら技術に触れる素晴らしい機会を提供しました。また、技科大らしい小物を販売し、すべて完売するという嬉しい結果となりました。

さらに、活性化経費を活用して新しい工作機械を導入し、既存の機械の修理も行いました。新規に導入したCNCフライスは、これまで不可能だった金属板の加工を可能にし、高精度な部品の作成を実現しました。これにより、ギアボックスなどの複雑な部品も自作できるようになり、製作の幅が大きく広がりました。

また、NHK総合で放送される「魔改造の夜」でも、私たちのサークルの工作機械が大いに役立ちました。残念ながら勝利を上げることは叶いませんでしたが、ロボコン同好会OBの方々とも交流できる良い機会となり、部員にとっても実りある経験となりました。

これらの改善により、製作環境が大幅に向上し、輪投げロボットの製作にも大いに役立ちました。これからも、技術の向上と新しい挑戦を続けていきたいと思っています。

技科大祭を通じて、多くの方々に技術の楽しさを伝えることができたことを嬉しく思います。今後も、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



豊橋日曜学校

応用化学・生命工学課程 3年 汲川 修也
顧問教員：建築・都市システム学系 教授 渋澤 博幸
部員数：学部 27名、大学院 8名

この度は、私たち豊橋日曜学校をご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心より御礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は、月に一度、知的障がいを持った子どもたちとふれあうことで、子どもたちに様々な経験をしてもらうことを目的として活動しているボランティアサークルです。毎月ごとにテーマを考え、テーマに沿った工作やゲームなどを行っています。また、その月々によって季節に沿った行事やイベントをたくさん企画することで、子どもたちにより楽しんでもらえるように工夫をしています。今年のキャンプは台風直撃のため、残念ながら中止になってしまったので、来年こそは実施できるように準備を進めていきたいと思えます。また、今年から愛知大学以外にもいろいろな施設で活動を行っているため、この調子でコロナ前の革新的な続けていけるよう、頑張っていく所存です。

今年度は技科大から12人の新入生が入部してくれ、現在技科大の学生は学部生27名、大学院生8名が在籍しています。

今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、7月イベントでの湖西アメニティプラザ等の移動費や毎月の活動当日やその準備で使用する資料・物品作成用のプリンタのインク、その他備品・消耗品の費用に充てさせていただきました。

今回のご支援、そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



水泳部

情報・知能工学課程 4年 屋敷 駿斗
顧問教員：機械工学系 准教授 竹市 嘉紀
部員数：学部 13名、大学院 2名

同窓会の皆様

水泳部代表の屋敷駿斗です。皆様からのご支援により、市民プール「りすば豊橋」の回数券を購入し、活動費として活用させていただきました。現在、学内プールはろ過機の故障で利用できないため、部の活動継続には市民プールでの練習が必要不可欠です。皆様のおかげで部員たちは日々練習に励むことができ、大変感謝しております。

今年度は新たに約10名の新入部員が入部し、経験豊富な部員から初心者まで幅広いメンバーが集まりました。水泳を通じて互いに切磋琢磨しながら、とても活発で楽しい活動を行っています。大会にも積極的に参加しており、昨年は参加しなかった「中部学生短水路水泳競技大会」に出場しました。この大会では短水路プールの特性を活かしながらそれぞれがベストを尽くし、良い成績を収めることができました。また、市民大会「アクアリーナ豊橋カップ」では、学部生から博士課程の学生まで多くの部員が参加し、学年を超えて一体感を深めました。

こうして水泳部の活動が存続し、部員が成長できているのも、ひとえに皆様のご支援のおかげです。今後ともご指導ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。重ねて御礼申し上げます。



同窓生への支援事業報告

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。同窓会正会員が10名以上参加したイベントに対して、一人2,000円を上限に助成しております。2023年度は14件、2024年度は現在までに9件に対して助成を行いました。コロナ禍等により飲食を伴う懇親会の開催が困難となった場合、オンライン形式でのイベント開催についてもオンライン会場使用料などを助成対象としております。同窓生支援事業の詳細・申請方法は同窓会ホームページ (<https://alumni.tut.jp/activity/support.html>) に掲載されていますので、是非ご覧ください。

工程制御研究室・システム制御研究室 同窓生の集い

開催概要

実施日	令和5年11月11日
開催場所	ホテルアソシア豊橋 5F ボールルーム A
出席者数	28名（内本学卒業・修了生27名）



申請者からのコメント

2011年度 修了 田崎 良佑

第13回目となる工程制御研究室/システム制御研究室の同窓会を豊橋にて開催いたしました。通例通りですと3年毎でしたが、コロナ禍の影響で実に6年ぶりの同窓会となりました。しかしながら、工程制御研開設時の1期生から、システム制御研の最終年度に在籍した同窓生に至るまで、幅広い年代の皆様にお集まりいただきました。同窓会では寺嶋先生より最近の技科大の様子などをお話していただき、同窓生からは近況報告と共に研究室での思い出話に花を咲かせました。

2023年度大門研究室OB・OG会

開催概要

実施日	令和5年10月7日、11月11日
開催場所	豊橋技術科学大学 G1-601
出席者数	18名（内本学卒業・修了生13名）



申請者からのコメント

1994年度 修了 大門 裕之

2008年に開設された大門研究室から、これまでに38名の学生が卒業・修了してきました。2019年度以来、コロナ禍明け初となる大門研究室OB・OG会を開催しました。今年は技科大祭の日とホームカミングデーの日の二回に分けて卒業・修了生を歓迎するための食事会を行いました。

今後も二年ごとの開催を予定しております。本会の連絡は、メールの送信や大門研究室ホームページへの掲載、毎年送付する暑中見舞いや年賀状を通して、ご連絡させていただいております。このようにして、大門研究室では現役学生・卒業・修了生やその関係者らとの繋がりを大切にしています。

豊橋日曜学校50周年大親睦会

開催概要

実施日 令和5年12月9日
開催場所 愛知大学豊橋キャンパス 食堂
出席者数 152名（内本学卒業・修了生29名）



申請者からのコメント

2021年度 修了 松尾 幸二郎

豊橋日曜学校は、豊橋技科大・愛知大学・豊橋創造大学の3大学が連携して、豊橋市に住む心身に障がいを持つ子どもたちと交流をすることを目的にこれまで50年間活動してきました。その50年という節目を迎えられたことを記念し、これまで活動を繋いできた日曜学校の卒業生に感謝の意を込めて、大親睦会を開かせていただきました。本イベントでは、卒業生と交流を図るため、立食パーティーを開催しました。また、在学生による現在の活動の近況報告や卒業生からの過去の活動についてのお話の披露や色々な世代の活動の雰囲気や互いに共有し合いながら有意義な時間を過ごすことが出来ました。次回の大親睦会開催時には、是非またご参加ください。

豊橋・長岡合同交流会 退職者を囲む会

開催概要

実施日 令和6年2月2日
開催場所 居酒屋「叶（かのう）」別館
出席者数 11名（内本学卒業・修了生10名）



申請者からのコメント

平成9年度 修了 柴田 栄作

愛知県職員の豊橋技科大と長岡技科大のOB・OGの合同交流会を、令和6年2月2日に開催しました。更には、長年ご尽力いただきました1名の退職者を囲む会でもありました。

経験豊富な方からの貴重な体験談や各自の近況報告など話も弾み、充実した時間を過ごすことができました。また、同窓生の絆も強くなり、特に若手職員には人脈を広げるいい機会になりました。

現在、令和5年度の豊橋&長岡の合同交流会には、19名在職（土木系のみ）しています。今後も多くの後輩をお待ちしています。学生時代の研究室の思い出話など、楽しい時間を過ごしましょう。

梅村恭司 教授 退職記念講演会懇親会

開催概要

実施日 令和6年3月24日
開催場所 創作美味わっほい
出席者数 23名（内本学卒業・修了生10名）



申請者からのコメント

2020年度 修了 廣中 詩織
豊橋技科科学大学情報・知能工学系梅村恭司教授の定年退職を記念して、講演会及び関係者を集めた懇親会を開催しました。開催に伴い、研究室の卒業生・修了生をはじめ数多くの方にご参加いただき、お料理やお酒を堪能しながら近状を話すなど、話に花を咲かせることができました。最後には、梅村教授の定年退職を記念して、皆様に記載いただきました寄せ書きをプレゼントいたしました。また研究室同窓会を開催する際は、今回ご参加いただいた皆様も、都合により参加ができなかった皆様にも、ぜひご参加いただければと思います。

建設工学系関西支部同窓会

開催概要

実施日 令和6年4月6日
開催場所 ニューオーサカホテル(中華料理アダスタム)
出席者数 23名（内本学卒業・修了生20名）



申請者からのコメント

1986年度 修了 神田 佳一
去る4月6日(土)に建設系の関西支部懇親会を昨年と同じニューオーサカホテルで開催しました。関西はもとより、東京や鹿児島から20名の卒業生が集まり、角徹三名誉教授はじめ3名の旧教職員の先生方にもお越し頂きました。角先生のご発声による乾杯の後、美味しい食事を頂きながら、ご家族や職場でのお話に始まり、技科大と高専の将来にいたるお話まで、一人一人に近況を語って頂きました。また、3期の福島重治氏には、プロ顔負けのマジックショーを披露して頂き、多いに盛り上がった会となりました。次回の懇親会は、令和7年4月12日(土)に行う予定です。関西在住の方にかかわらず、皆様のご出席をお待ちしております。

名誉教授中村俊六先生を囲む会

開催概要

実施日 令和6年6月1日
開催場所 蕎麦匠まつや
出席者数 21名（内本学卒業・修了生18名）



申請者からのコメント

1982年度 修了 和田清

去る6月1日（土）、5年ぶりに名誉教授中村俊六先生を囲む会を豊橋市で開催しました。北海道・青森から鹿児島まで21名の建設系水工研究室の旧教官・卒業生・修了生（創設期から20年程度まで）が集まり、中村俊六先生の盤寿のお祝いをしました。一期生の佐藤小次郎様のご発声による乾杯の後、美味しい食事を頂きながら、一人一人に近況を語って頂き、中村先生との思い出や技科大と高専の将来に至るお話まで、多いに盛り上がった会となりました。

スズキ雲雀会（社内の豊橋技科大OBOG会）

開催概要

実施日 令和6年5月31日
開催場所 グランドホテル浜松 ゲストハウス
出席者数 15名（内本学卒業・修了生15名）



申請者からのコメント

1993年度 修了 大口信一

スズキ株式会社、及びスズキ・グループに所属する豊橋技術科学大学 OBOG で組織する「スズキ雲雀会」の第2回懇親会です。会員同士が相互に交流をし、親睦を深めることを目的として、幅広い年代が集い、雲雀ヶ丘にあるキャンパスの話や、「ロボコン」、「魔改造の夜」など豊橋技術科学大学にまつわる話をしました。引き続き楽しみながら長く続けていきますので、よろしくお祈いします。

中日本建設コンサルタント豊橋技科大同窓会

開催概要

実施日	令和6年6月26日
開催場所	十八番
出席者数	13名（内本学卒業・修了生13名）



申請者からのコメント

令和元年度 修了 村田 雄介

幹事を仰せつかりました村田です。出身大学が同じ社員同士の親睦を深めることを目的として、昨年度に引き続き、社内の豊橋技術科学大学OB会を開催しました。今年度は新入社員3名を含む豊橋技術科学大学卒業生の13名が集まりました。当会では、年齢層は離れていても和気あいあいとした雰囲気です。親睦を深めることができました。来年度以降も新入社員を迎え入れ、会社をさらに盛り上げたいと思います。

マイクロ・ナノ機械システム研究室 同窓会・懇談会・還暦祝い

開催概要

実施日	令和6年8月24日
開催場所	肉寿司と和食個室居酒屋ひまり
出席者数	26名（内本学卒業・修了生16名）



申請者からのコメント

2023年度 修了 夏原 大悟

先日、コロナ禍による中断を経て、初の懇親会を開催いたしました。本会では、多くの卒業生・修了生の方々にご参加いただき、久しぶりの再会を喜び合いながら、業界の最新動向について意見交換を行うとともに、未来への展望を共有しました。また、恩師である柴田隆行先生の還暦のお祝いもでき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。次回の開催に向けて、さらに多くの方々と交流を深めることを楽しみにしておりますので、ぜひご参加ください。詳細は追ってご案内いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

デンソー雲雀会

開催概要

実施日	令和6年9月12日
開催場所	D スクエア 然
出席者数	28名（内本学卒業・修了生28名）



申請者からのコメント

1991年度 修了 上田 進

2020年以降中止しておりましたDN雲雀会（デンソー Gr. 内の豊橋技術科学大学OB・OG会）を本年9月に開催致しました。また、初めての試みですが、トヨタ・スズキ・デンソーの3社合同の雲雀会を11月に企画しております。今回ご出席できなかった方も含め、来年度はぜひご出席をお待ちしております。

2024年度豊橋技科大同窓会総会参加者懇親会

開催概要

実施日	令和6年9月7日
開催場所	Chinese Dining 謝謝駅前店
出席者数	23名（内本学卒業・修了生23名）



申請者からのコメント

2001年度 修了 稲田 亮史

2024年度本学同窓会総会を豊橋技科大サテライトオフィスで開催し、総会終了後に対面参加者有志23名で懇親会を開催しました。先月のABUロボコン大会にて3位入賞の成績をおさめたロボコン同好会出身者からの大会当日の様子を報告をはじめ、各参加者の近況や将来の同窓会活動の展開などをネタに、大変賑やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。総会後の懇親会は毎年開催していますが、参加された同窓生の方より、豊橋だけでなく違う地域（東京、大阪など）で開催しては、とのご提案もありました。豊橋まで来るのが難しい同窓生の方々との交流を深める機会になると思いますので、次年度に向けて役員会で検討して参ります。

旧1系・第2講座同窓会

開催概要

実施日 令和6年9月9日
開催場所 炙楽（あぶらく）
出席者数 11名（内本学卒業・修了生11名）



申請者からのコメント

1987年度 修了 井田 民男

旧1・エネルギー工学系の修6～修15くらいのメンバーで日本機械学会年次大会のタイミングでTUT同窓会を企てています。次回は、2025年度年次大会2025年9月07日-10日北海道大学です。参加希望の方は、修6・井田（大竹研）(tami3001@kindai.ac.jp)までご連絡ください。

建設工学6期同窓会

開催概要

実施日 令和6年11月16日
開催場所 愛知・蒲郡温泉郷 天の丸
出席者数 16名（内本学卒業・修了生15名）



申請者からのコメント

1986年度 修了 近藤 恵美

－ Over60 元気ですか？－

定年などの節目の時期を過ぎ、度々の小規模集合の数年間の準備を経てやっと開催できました。前回は2017年、我が6期時代の「建設工学系の母」事務技官のご勇退を機に集合しました。そして今回は「母」もゲストにお迎えし、宿泊付き懇親会を計画しました。人生の節目で、連絡網もリセットするところから始まり、時代に遅れまいとSNSでの連絡ツールも確立され、新たな集まりへと進化させることができました。宴が進むにつれ学生同士に戻る会話。キャンパスツアーも行い、当時を存分に楽しむ2日間となりました。何はさておき、健康第一で次も集ましましょう。

大学の広報活動

本学は、公式ウェブサイト、公式 SNS、大学広報誌、FM ラジオ等様々な媒体を通じ、大学情報の発信を行っています。



大学公式ウェブサイト

<https://www.tut.ac.jp/> (日本語版)

<https://www.tut.ac.jp/english> (英語版)



天伯 TEMPAKU

年2回発行

本学の研究やイベント、課外活動などの「ギカダイの今」をお届けする広報誌です。



<https://www.tut.ac.jp/tempaku/>



TUT Research e-Newsletter from Toyohashi University of Technology

年4回発行

最新の研究成果や取り組みを、日英バイリンガルにて発信している研究広報ウェブマガジンです。



<https://www.tut.ac.jp/english/newsletter/>

大学公式 SNS

facebook、X (旧 Twitter)、YouTube にて、イベント情報や学内風景を随時発信しています。



FM ラジオ広報「天伯之城 ギカダイ」

エフエム豊橋 (84.3 MHz) にて毎週土曜日夕方 5 時過ぎに放送しています。毎週、本学教員の興味深い研究内容や本学の取り組みなどを地域の皆様に向け紹介しています。放送の音声データは、本学ウェブサイトにて聴取可能です。



<https://www.tut.ac.jp/castle.html>

季報「技科大の顔」配信中

同窓会では、さまざまな世代の卒業生の活動・近況・大学や後輩へのメッセージなどをお伝えする季報「技科大の顔」を配信しています。こちらもぜひご覧ください。

季報「技科大の顔」

<https://alumni.tut.jp/newsletter/>



